令和4年第4回田野畑村議会定例会会議録（第1号）

招集年月日	令和4年8月22日					
招集の場所	田野畑村役場					
開閉会日時	開会 令和4年9月9日			議長	鈴木隆昭	
	閉会 令和4年9月15日					
応（不応）招議員 及び出席議員並び に欠席議員 出席 10名 欠席 0名	議席番号	氏名	出席等別	議席番号	氏名	出席等別
	1	中村芳正	出	6	畠山拓雄	出
	2	工藤求	出	7	上山明美	出
	3	上村浩司	出	8	中村勝明	出
	4	小松山久男	出	9	佐々木功夫	出
5	佐々木芳利	出	10	鈴木隆昭	出	
会議録署名議員	1	中村芳正		2	工藤求	
職務のため議場に出席した者の氏名	事務局長	畠山哲	主査	三上恵美		
地方自治法 第121条により 説明のため出席 した者の職氏名	村長	佐々木靖		教育長	相模貞一	
	副村長	阿部芳肇		教育次長	平坂聡	
	総務課長	工藤光幸		教育委員会事務局 主査	工藤真樹	
	企画観光課長	佐々木修				
	地域整備課長	工藤隆彦				
	住民生活課長	大森泉				
	健康福祉課長	佐藤和子				
	会計管理者 税務会計課長	早野和彦				
	産業振興課長	佐藤智佳				
	総務課主幹	菊地正次		企画観光課 主任主査	大澤健	
	企画観光課主幹	佐々木賢司		地域整備課 主任主査	工藤光昭	
	健康福祉課主幹	佐々木和也		地域整備課 主任主査	佐藤太	
	産業振興課主幹	横山順一		住民生活課 主任主査	中野千鶴	
				産業振興課 主任主査	角館尚	
			産業振興課 主任主査	畑山讓		
議事日程	別紙のとおり					
会議に付した事件	別紙議事日程のとおり					
会議の経過	別紙のとおり					

令和4年第4回田野畑村議会定例会会議録

議事日程（第1号）

令和4年9月9日（金曜日） 午前10時00分開議

開 会

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期決定
- 日程第3 諸般の報告
- 日程第4 行政報告
- 日程第5 一般質問
- 日程第6 認定第1号 令和3年度田野畑村一般会計歳入歳出決算認定について
- 日程第7 認定第2号 令和3年度田野畑村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第8 認定第3号 令和3年度田野畑村簡易水道特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第9 認定第4号 令和3年度田野畑村集落排水特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第10 認定第5号 令和3年度田野畑村下水道特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第11 認定第6号 令和3年度田野畑村介護保険特別会計歳入歳出決算認定について
- 日程第12 認定第7号 令和3年度田野畑村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について

散 会

◎開会及び開議の宣告

○議長【鈴木隆昭君】 ただいまから令和4年第4回田野畑村議会定例会を開会いたします。

ただいまの出席議員は10人であります。定足数に達しておりますので、会議は成立いたしました。

直ちに本日の会議を開きます。

(午前10時00分)

◎議事日程の報告

○議長【鈴木隆昭君】 本日の議事日程は、あらかじめお手元に配付したとおりであります。

日程に従い進行いたします。

◎会議録署名議員の指名

○議長【鈴木隆昭君】 日程第1、会議録署名議員の指名を行います。

会議録署名議員は、会議規則第127条の規定により、議長において、1番、中村芳正君、2番、工藤求君を指名いたします。

◎会期決定

○議長【鈴木隆昭君】 日程第2、会期決定の件を議題といたします。

お諮りいたします。本定例会の会期は、本日から16日までの8日間といたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議長【鈴木隆昭君】 ご異議なしと認めます。

よって、会期は本日から16日までの8日間と決定いたしました。

なお、会期日程につきましては、お手元に配付いたしました会期計画のとおりでありますので、ご了承願います。

◎諸般の報告

○議長【鈴木隆昭君】 日程第3、諸般の報告を行います。

村長から報告1件、承認1件、議案4件、認定7件、令和3年度主要施策の成果に関する説明書並びに決算審査意見書、財政健全化等審査意見書の送付があり、お手元に配付しておりますので、ご了承願います。

次に、村長から地方自治法第243条の3第2項の規定に基づき、株式会社陸中たのはたの経営

状況等を説明する資料の送付があり、お手元に配付しておりますので、ご了承願います。

次に、監査委員より監査結果の報告書3件を受領しており、その写しをお手元に配付してありますので、ご了承願います。

次に、会議等関係であります。お手元に配付しておりますので、ご了承願います。なお、関係書類は事務局にありますので、御覧願います。

次に、宮古地区広域行政組合議会臨時会の議決事件の概要を畠山拓雄君から報告願います。

6番、畠山拓雄君。

○6番【畠山拓雄君】 去る6月27日に招集された宮古地区広域行政組合議会臨時会において審議された議案につきまして、その概要をご報告申し上げます。

本臨時会は、宮古市役所議場において午後3時に開議され、会期は1日限りでございました。議案は1件で、お手元に配付しております概要報告書のとおりでございます。

議案第1号 財産の取得に関し議決を求めることについてでございますが、消防活動の用に供する水槽付消防ポンプ自動車Ⅱ型の買入れをしようとするもので、これを原案のとおり可決しております。なお、本件の車両については、川井分署に配置予定となっております。

以上で報告を終わります。

○議長【鈴木隆昭君】 次に、岩手県沿岸障害児施設組合議会臨時会の議決事件の概要を上山明美さんから報告願います。

7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 去る令和4年6月27日に招集されました岩手県沿岸知的障害児施設組合議会臨時会において審議されました議案等につきまして、その概要をご報告申し上げます。

本臨時会は、宮古市役所議場において午後2時に開議され、会期は1日限りでございました。議案等は2件で、お手元に配付しております概要報告書のとおりでございます。

選挙第1号 議長の選挙につきましては、宮古市議会選出の落合久三議員が議長に当選されました。

議案第1号 岩手県沿岸知的障害児施設組合監査委員の選任に関し同意を求めることについては、岩手県沿岸知的障害児施設組合監査委員のうち、識見を有する者の選任に関し、議会の同意を求めるもので、宮古市の松館恵美子氏を選任することについて同意しております。

以上で報告を終わります。

○議長【鈴木隆昭君】 これで諸般の報告を終わります。

暫時休憩いたします。

休憩（午前10時06分）

再開（午前10時07分）

○議長【鈴木隆昭君】 休憩前に引き続き会議を開きます。

○議長【鈴木隆昭君】 日程に従い進行いたします。

日程第4、行政報告を行います。

佐々木村長。

〔村長 佐々木 靖君登壇〕

○村長【佐々木 靖君】 6月10日からの行政報告を行います。主なものについてご説明申し上げます。

6月27日でございますが、友好都市である埼玉県深谷市長を阿部副村長に表敬訪問していただき、6月上旬に降ひょう被害のありました、その見舞金を届けていただいております。

6月29日でございますが、三陸沿岸道路田野畑道路・尾肝要普代道路整備促進期成同盟会の総会を開催し、三陸沿岸道路全線開通、12月18日の全線開通により同盟会の所期の目的を達したことから解散しております。

7月13日から15日でございますが、町村長管外行政調査に参加し、徳島県では神山町のサテライトオフィスのまちづくり等を、香川県では三木町の空き校舎の農業研究拠点の活用等を視察してまいりました。

8月1日でございますが、鈴木議長にも同席をいただきまして、岩手県市町村要望といたしまして、県に対して15項目を要望いたしております。

8月10日でございますが、いわて県民計画第2期アクションプランの策定に向けた市町村長との意見交換会に出席し、本村として人口減少対策、医師確保、水産振興など、意見を述べてまいりました。

8月15日でございますが、かつての成人式でございますが、田野畑村20歳の集い式及び21歳、22歳の集い式を3年ぶりに開催したところでございます。

なお、入札は7月26日に6件、8月29日に1件行っておりますが、その結果は記載のとおりでございます。

以上でございます。

○議長【鈴木隆昭君】 これで行政報告を終わります。

◎一般質問

○議長【鈴木隆昭君】 次に進行いたします。

日程第5、一般質問を行います。

一般質問は、通告順に従ってこれを許します。

7番、上山明美さん。

〔7番 上山明美君登壇〕

○7番【上山明美君】 議席番号7番、上山明美です。通告に基づき、村政運営、産業振興、保健医療福祉、教育行政について質問します。

まず、村政運営について、村民懇談会について伺います。ここ数年6学区単位で実施していた村民懇談会を、今年度は行政区ごとに行いました。行政区ごとに行った時期もありますが、今回どのような考えから行政区ごとに実施することにしたのか。

9月1日現在のこれまでの実績、行政区数と参加者数はどれぐらいでしょうか。

懇談会では、いろいろな意見や要望が出されたと思いますが、その中で村長が早急に取り組む必要があると思った課題や事業はどんなことでしょうか。

村長は常々、村民との対話、村民の声を聞くという姿勢で取り組んでおり、今年度作成した総合計画でも、「計画の実現に向けた取り組みにおいては、村民の皆さまとの対話と説明責任を果たすことを大切に、村民総参加のもとに政策を立案し、実行してまいりますので、一層のご理解とご協力をお願いします」と述べております。今回実施した懇談会で出された意見等々は、これからの村政にどのように反映させていくつもりなのでしょうか。

次に、産業振興について、産業開発公社の新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金事業の進捗状況について伺います。

6月定例会において、長引くコロナ禍で、人との接触回避による一般家庭での牛乳、乳製品の購入回数が減り、売上げ減少が続いていることから、経営活動の強化等による販路拡大への取組及びICTの活用による業務効率化の取組を支援するという事で、田野畑村産業開発公社運営強化支援補助として500万円を決定しました。内容は、販路拡大活動費、旅費等に165万円、チラシ等作成費に60万円、商品サンプル作成費に50万円、売上管理システム導入費に205万円、職員研修に20万円となっております。事業ごとの進捗状況とこれまでの実績や効果等について説明をお願いします。

保健医療福祉分野については、自分にとっても人ごとではない認知症とフレイルへの対策について伺います。社会の高齢化に伴い、認知症の増加が問題となり、また近年は平均寿命が延びたことによる、心身の機能が低下するフレイルも問題視されています。年を取っても自分なりの役割を持ち、住み慣れたところで元気に暮らしていくためには、それを阻害する要因である認知症やフレイルを予防することが重要です。

そこで、村として認知症やフレイル状態の把握をどのように行い、また予防策としてどのようなことを行っているのでしょうか。

現在把握している認知症及びフレイル状態の人数はどれくらいか。

これまで認知症サポーターを養成してきましたが、サポーター数と、サポーターがどのような活動を行っているのか。

2025年度までに全市町村への整備を目標としているオレンジチームへの取組状況についてはどのようなになっているのでしょうか、伺います。

教育行政については、部活動の地域移行と学校運営協議会について伺います。公立中学校の部活動を地域団体や民間事業者に委ねる地域移行を2025年度末までには実現すべきという提言もあります。身近に委ねる団体等がない本村では、この地域移行についてどのように考えているのでしょうか。

これまで準備を進めていた学校運営協議会については、田野畑村総合計画にも、「学校運営協議会（コミュニティスクール）を導入し、学校を中心とした活動や地域住民の連携に努めます」とあります。6月にスタートしたばかりですが、先に質問した部活動の地域移行にも大きく関わってくるのではないかと考えます。今後どのように進めていくのか、説明をお願いします。

これでこの場での質問を終わります。当局の答弁に対し、自席にて追加質問したいと思っておりますので、よろしくお願いします。

○議長【鈴木隆昭君】 7番議員に対する答弁を求めます。

佐々木村長。

〔村長 佐々木 靖君登壇〕

○村長【佐々木 靖君】 7番、上山明美議員のご質問にお答えいたします。

まず、村民懇談会についてでございますが、今年度におきましては、できるだけ多くの村民の皆様に参加していただき、堅苦しくない雰囲気の中で、日頃の生活や村政に関する意見交換を行いたいという考えの下、より身近な単位である自治会ごとに開催することとし、開催希望のありました自治会に伺い、実施したところでございます。その結果、令和4年6月28日から8月8日までの間に14地区で懇談会を開催し、計156名の出席をいただいたところでございます。8月1日現在の村の人口3,082人に対する出席割合は約5%、1自治会当たりの平均は約11人の参加をいただいたところでございます。

懇談会で寄せられました課題や要望は、多種多様なものでございましたが、整理いたしましたところ、項目は100を超えております。各地区から多く寄せられた主なものとしては、道路の整備や維持補修に関するもの、防災行政無線の聞こえ具合に関するもの、鹿や熊の被害やその対策に関するもの、マイナンバーカードに関するもの、三陸沿岸道路と道の駅の接続に関するもの、少子高齢化に関するもの、役場庁舎の老朽化に関するものなどとなっております。

これらのうち、簡易な道路修繕、防災行政無線の戸別受信機の修理や交換、調整等につきましては、現地を確認した上で対応を図ったほか、マイナンバーカードの取得率の向上を図るため、各地区に出向いて申請の受付を行う取組を8月23日からスタートさせたところでございます。その他の意見等につきましても、対応方針を検討した上で各地区に回答するとともに、道路整備や産業振興、少子高齢化対策といった村政全般に関する事項につきましては、来年度予算の編成作

業や総合計画実施計画のローリングを通じて、実施内容、時期等を詰めていくことといたしております。

次に、産業開発公社における本年度の新型コロナウイルス対策交付金事業の進捗状況についてでございますが、6月定例会において経営強化支援補助金の補正予算を可決いただき、6月15日付の補助金交付決定から本事業に着手している状況でございます。

まず、販路拡大活動につきましては、8月に関西方面への営業活動を行っており、6万円ほどを執行しております。今後は、首都圏への営業やイベント出店を強化するとともに、新たな流通体制の構築を進めていく予定と伺っております。

次に、チラシ等作成につきましては、営業先の社員様向け等に夏のギフトカタログを増刷、配付し、30万円ほどを執行しております。今後は、イベント向けや店舗向けのPR素材やポップを作成していく予定とのことです。

次に、商品サンプル作成につきましては、営業アイテムとして試食用の商品を作成し、13万円ほどを執行しております。今後は、新商品の開発を進める予定と聞いております。

次に、売上管理システム導入につきましては、オンラインでの商談に利用するパソコンとウェブカメラを1台ずつ購入し、社内ネットワークの整備と合わせて48万円ほどを執行しております。今後は、経理業務と連動した会計管理システムを導入し、事務の効率化を図る予定と伺っております。

最後に、職員研修につきましては、乳製品の販売が落ち着く秋以降に実施する計画としており、現在は未執行となっているようでございます。

現時点での事業費ベースの進捗率は約19%となっておりますが、新規取引先を2件確保するなど、補助金の効果も出てきていると聞いております。今後は、物価高騰に伴う価格改定にも取り組むほか、さらなる事務の効率化、現場改善、商品開発、営業活動等をなお一層進めていくものと期待しているところでございます。

次に、認知症とフレイルへの対策についてでございますが、把握方法につきましては、介護認定調査、介護予防事業が主なものでございます。これらの方法で把握した人数は、認知症高齢者が約150人、フレイルが約40人となっております。現在のところ正確な人数把握は難しい状況でございますが、来年度以降は高齢者保健と介護予防を一体的に行う事業の中で活用可能な国保データベースシステムにより、実態に近い対象者の把握が可能になると考えております。

村が行っている予防策といたしましては、地区を巡回して軽運動などを行うはつらつ教室を開催しているほか、栄養教室や歯科健診、保健センターでのパワーリハビリテーションなどを行っております。また、一昨年と昨年は新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い開催できておりませんが、村内介護保険事業所等を会場に認知症カフェを開催してきたところでございます。これらにつきましては、コロナ感染症の状況を見ながら再開したいと考えております。このほか、介護

予防ボランティアフォローアップ講座を開催し、ボランティアのスキルアップなどに努めているところでございます。

次に、これまで養成した認知症サポーター数と現在のサポーターの活動状況についてでございますが、村では平成28年度から養成講座を開催しており、認知症サポーターは現在68人となっております。一昨年、昨年とコロナウイルス感染症拡大に伴い、養成講座の開催を見送ってまいりましたが、本年度は10月に田野畑小学校4年生を対象に開催する予定で、現在準備を進めているところでございます。サポーターの皆さんには、それぞれの地域内での見守りや声かけのほか、介護予防ボランティアとしても活動していただいております。

次に、認知症サポーターや事業所等が連携し、認知症の人や家族に対し早期から生活面の支援等を行う取組であるチームオレンジの整備状況についてでございますが、現在村では2025年の設置に向け検討しており、7月には健康福祉課職員がチームオレンジコーディネーター養成研修会に参加し、運営のノウハウを学んできたところでございます。このコーディネーターと認知症サポーターなどが連携し、地域で把握した認知症の方やその家族の困り事などへの支援を行っていくことがチームオレンジの大きな役割だと認識しているところでございます。今後におきましても、研修会へ積極的に参加するなど、設置に向けて準備を進めてまいります。

○議長【鈴木隆昭君】 引き続き答弁を求めます。

相模教育長。

〔教育長 相模貞一君登壇〕

○教育長【相模貞一君】 7番、上山明美議員のご質問にお答えをいたします。

文部科学省の外局であるスポーツ庁が6月に、同じく文化庁の有識者会議は8月に、それぞれ2025年度、令和7年度までに公立中学校の休日の部活動を地域移行する改革を提言してまとめています。それによりますと、2023年度、令和5年度から2025年度、令和7年度の3年間を改革集中期間に設定しています。

これを受けまして、本村としましては休日の部活動の移行実現に向けて、文科省や県教委の動向を伺いながら、具体的な取組内容や推進計画をつくり、運営団体の組織化、人的配置やその運営の仕方など、現在の部活動に関わる学校、部活動指導員、保護者会、教育委員会、村及び近隣市町村と連携、協議し、田野畑村の部活動の改革について進めてまいります。

次に、学校運営協議会、コミュニティ・スクールについてお答えします。学校運営協議会、コミュニティ・スクールは、学校運営に地域の声を取り入れ、地域とともにある学校を目指すものです。保護者や地域の多様な人々で構成する運営委員が、学校の運営や課題等について話し合いをするとともに、魅力ある学校づくりのために支援、応援をいただきながら、学校の教育環境をよりよくしていくことを目指しています。県教委では、2024年度、令和6年度までに全ての県立学校に導入の方針です。また、県下全市町村では本年度中の導入を予定しています。

本村では、令和2年3月定例教育委員会議で田野畑村学校運営協議会規則が承認され、令和2年4月から導入予定でしたが、新型コロナウイルス感染症により会議等ができない状況により、この6月より、小学校と中学校に1つの学校運営協議会を立ち上げたところです。今後は、学校運営協議会の会議と並行しながら、学校及び学校運営委員の研修機会や、村民の皆様の協議会への理解を進めるために、広報活動や講演会、他地域での実践を学ぶ機会などを設けるなどしながら、地域とともにある学校の実現を図り、持続可能な田野畑の子供たちを育む教育環境づくりを目指してまいります。

以上、答弁といたします。

○議長【鈴木隆昭君】 補充質問を許します。

7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 村民懇談会のことなのですが、開催希望のあった自治会に伺いという答弁だったので、これは、こういうことをしますから、希望しますか、しませんかということをして全行政区に問いかけて、やってくださいというところに行って懇談会をしたということではよろしいのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 企画観光課長。

○企画観光課長【佐々木 修君】 村民懇談会の開催の仕方ですが、各自治会に文書のほうで開催の趣旨、それからもし、もしというか、開催を希望するのであればどの日がいいかということをしてそれぞれ伺って、希望があったところで実施をしたものでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 そのときにその団体で特にちょっと開催できないかなというところもあったのかなと思うのですが、希望しなかったと言うのも変ですが、特にそういう要望のなかった自治会に対しては、今後どのように対応するのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 企画観光課長。

○企画観光課長【佐々木 修君】 広報のほうでも一部お知らせしておりますが、自治会に限らず、各種団体、例えばPTAだとかいろんな団体が村内にあると思うのですが、自治会だけでなく、そういった団体様でも希望があれば開催をしたいというものでございます。したがって、この期間に限ったものではなくて、今後期間を定めずに実施をしてまいりたいというふうを考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 学区単位でやっていたときと開催した行政区等々でちょっと違いがあると思うのですが、参加者については、割と参加率がいいとか、全部の学区がやっているのだと、6学区単位ではこうだったけれども、各自治体に、行政区にしたらということができるとは思うのですが、参加人数としてはここに数字が出ているわけですが、狙いを持って行政

区ごとにやってほしいというところに行ったわけですが、手応えとしてはどうだったでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 企画観光課長。

○企画観光課長【佐々木 修君】 今回14自治会で開催しましたが、多くが5時半以降の開催ということで、午前中の開催を希望したところが2自治会で行っていただきました。その中で1自治会のほうから、仕事をしている若い世代もいるので、6時とか6時半とかに開催するようなことができないかというような話もございましたので、ちょっとこちらの通知の仕方も時間を区切ってというところがありましたので、今後につきましては、そういう若い世代の方もお仕事が終わってから参加できるような形も考えながら進めてまいりたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 全部が全部要望に沿うというわけにはいかないと思うのですが、やはり私も自治会でやったときに参加したのですが、この時間だとちょっと早い、稼いでいる人が戻ってこない時間だからというのもあったのですが、夕飯の支度をする人はちょうどいいというような感じで、やっぱり世代とか職業とかでずれているところがあるので、なかなか一律ではないと思うのですが、先ほど言ったみたいにいろいろな団体というのに声をかけていけば、おのずと時間帯とかも決まってくるのかなというところもありますので、より意見を聞くというような意味で、そこは柔軟に対応ということで、小さな声でもいいから反映できるような体制を取っていただければと思います。

あと村長に伺いますけれども、いろいろ要望がここに出たとありますけれども、村長が今この時点で回ったところで、共通の課題だなとかというふうに思ったことがあるかと思うのですが、いろいろ意見が出たけれども、これは村の共通の課題ではないかな、解決しなければならないことではないのかなと思ったことはどんなことなのか、お知らせください。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 今回は行政区単位ということでやりました。役場からの出席者も4人と極力抑えまして、話しやすい雰囲気をつくったところがございます。村内を回りまして、やっぱり少子化ですね、出席者もちょっと高齢の方も多かったのかなと思ひまして、若い人たちが意見を述べる機会、そういうのも重要だなと思ひましたし、あと産業振興ですか、やっぱり稼ぐ場所、所得、そちらのほうの対策も打っていかないと子供も増えないのかなというふうな感じがしたところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 少子化、子供さんがなかなか生まれないということと産業振興というのがあって、やっぱりこれを何とかしてもらいたい、どうにかしないと駄目だというふうなことが出たと思うのですが、それに対しては、村長はどのような答弁、答弁と言えれば変ですね、こう

いうふうにしていくということその場で言ったと思うのですけれども、村民の皆様に対し、出たことに対して、どのような回答というか、どのような考えを述べたのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 地区の住民の方との懇談会でした。産業団体との懇談でなかったものから、具体的な踏み込んだ、こうしたいとか、こうやりたいという話はなかなかしなかったわけですけれども、沿岸の首長さんたちとの意見交換会もあった場合には、三陸沿岸道路が開通したので、通勤エリアが広がっていると。特に工場を誘致して活動している市長さんたちもいるようですが、働く人はいるのですかと逆に問われたときに、自分の自治体だけではそろえられない部分は、やっぱり近隣の市町村からも通えるようになっていきますよというような回答もしているようでございますので、1つの自治体だけで賄えない分は、そういう補っていける方向でも検討して、雇用をつくっていくことができればいいかなと、そういうふうな考えを持っております。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 副村長も一緒に回ったと思うのですけれども、副村長としての感想というのですか、やっぱりこういう問題があるとか、ここは解決しなければならないということを副村長なりに感じたと思うのですけれども、副村長が村民懇談会に参加して感じたこととか思ったことをお願いします。

○議長【鈴木隆昭君】 阿部副村長。

○副村長【阿部芳肇君】 お答えいたします。

私も村長と一緒に全地区回らせていただきまして、ふだん仕事をする中でなかなかお目にかかれない方にも会うことができましたし、非常に有意義なものであったというふうに感じております。今回行政区単位ということで、私は旧学区単位でやったことには参加していませんが、会長さんのもとにまとまって、地区としての意見のある程度まとめた上でお話をされていたので、自治会活動が盛んに行われているなというのを感じましたし、あとは地区でこういうことが困っているのだということを率直に伝えていただいたので、有意義な場だったというふうに思っております。

先ほど村長も答弁差し上げておりましたが、やっぱり少子高齢化、地域の元気がなくなってきているというのが一番の大きな声だったと思っていますし、そこから派生して、動物の被害が増えているですとか、あとは雪かきなり草刈りなりが大変になってきているといったことが挙げられていたところだったと思います。これまで自治会活動が盛んだったがゆえに、村が手を入れなくても済んできた部分が多々あったかと思っているのですが、なかなかそれが成り立たなくなっているような場面も見受けられる中で、今後の地区と役場の付き合い方といいますか、というのは考えていかなければならないのだというふうに思ったのが1つと、あとは村としては大きな取組、地域振興の起爆剤となるようなことも、進んだ取組も考えていかなければならないなど

というような2つを大きく感じた次第です。

以上となります。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 細かく入って、言いやすいことというので、いろいろと意見は出たと思うのですが、問題等を把握して、村民の声を聞いて、ちゃんと説明して、行政に生かすということなので、何となく次は何をするのかなというような方向性は見えてきたのかなというところもありますけれども、それを解決するためにはどうするかということに今後なってくるのだと思うのですが、今後も周知等々して、いろいろな団体とか、グループとか、自治会もですが、意見を聞く、声を発してもらおうということをやっていただくのが一番なのかなと思いますので、よろしくお願いします。

産業開発公社のことについて伺います。まだ6月に決めて、6月に決まって、なかなか始まるというのかもしれませんが、答弁の中に新規取引先を2件確保というのがあったのですが、これは販路拡大活動と結びついての新しいところの新規開発という、新しく販路拡大事業をした成果で新しい取引先が見つかったということなののでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐藤智佳君】 お答えいたします。

新しく商品を置いていただくということで、販路拡大となったものでございます。2件、これまでの間に獲得しておりますけれども、前段で申し上げました関西の営業のほうで、小さなお店ではありますが、1店舗、それから岩手県の県庁生協ということで、2件の獲得となっております。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 地道に成果を出していただいているということだと思います。

あとチラシ等の作成なのですが、6月に決まってということになって、すぐ夏休みというのか、8月ですか、お中元、そういうようないろいろな商品のギフト、夏のギフトということになったのですが、増刷、配付ということなのですが、これは特に前にあったチラシというのか、そういうのをそのまま増刷したということでしょうか。それとも何かこれの補助金を使って新しいのを作って、増やし、たくさん印刷したということでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐藤智佳君】 お答えいたします。

この夏のギフトカタログ、皆さんも御覧いただいたかと思いますが、それを、同じものを増刷いたしまして、大きい企業さんですとか、県庁の職員さんもそうなのですが、そういったところに配らせていただいたところがございます。今後においては、予算の中で、新商品ですとか、また特別にカタログ等も作っていきたい計画であると伺っております。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 8月の夏、今度12月、お中元とかとなつて、冬のギフトとかとなつてくる時期は、やっぱりうちだけではなくて、どこもチラシがいっぱい入るというのですか、田野畑の場合だと村の公社が入って、道の駅も入りますし、岩泉町とかというのがあるので、やっぱりいい商品を扱っていてもスルーされるようなチラシとか、「あれっ、何これ」というふうなところがやっぱりちょっと必要なのかなと思うので、ここにポップとかいろいろ、コロナでイベントとかというのがあるのですけれども、そういうふうなこととかもやっていかなければならないと思うのですけれども、今度は夏が終わったらすぐ冬というような感じなのですけれども、ポップとかをイベントに合わせてということなので、冬のチラシについてはちょっと工夫をするとか、今までよりちょっと考えていこうというような計画とかはあるのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 阿部副村長。

○副村長【阿部芳肇君】 お答えいたします。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午前10時46分）

再開（午前10時46分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

○副村長【阿部芳肇君】 お答えいたします。

冬に向けましては、これから新商品開発なども考えているところではございますので、そういった新しい要素を入れた、目を引くチラシですとか、目を引く商品を開発していきまして、新たなお客様ですとか、あとは久しぶりに公社の製品を使ってみたいなといったようなものがつくれるように努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 商品サンプル、新しい商品を作るとかという中で商品サンプル作成で、営業アイテムとして試食用の商品を作成と言うのですけれども、これは具体的にどのようなものでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐藤智佳君】 お答えいたします。

公社のほうをお伺いしたところでございますが、現在商品となっている部分は販売している状態で、営業先に持ってまいったり届けたりするのですが、まずはやはり味を見ていただくというようなもので使用させていただいているという経費でございます。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 新商品の開発については、特に具体的にこれでいこうというような何か商品

とかというのは決まっているのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 阿部副村長。

○副村長【阿部芳肇君】 具体的な商品開発については、これから絞り込んでいく予定ではあります
が、これまで営業されていたところから、もう少しこういう味の工夫があればもっといいよねと
か、あとは都会向けにはこういう商品がいいよねですとか、あと営業活動で歩く中で、行く先々
の百貨店ですとか高級スーパーの棚を見ますといろいろな商品が並んでおりまして、飲み比べ、
食べ比べをすると、うちの商品はずいぶん商品、産業開発公社の商品がこういうふうな形であれば
もう少し量目なり、味つけなり、いいのではないかと思うところは結構ありますので、そういっ
たところをやっていきたいというふうに考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 原料そのものは非常にいいので、あとはそれをどう生かすかということ、売
り方とかということになると思うので、ぜひ頑張ってもらいたいと思います。予算を使っている
のがまだまだこれからということなので、あと物価高騰、これは本当にどうにもならないことな
のですけれども、価格改定にも取り組むということは、やっぱり非常に苦しい状況だとは思っ
てはいるけれども、値上げ等々も考えなければならぬということでもよろしいでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 阿部副村長。

○副村長【阿部芳肇君】 お答えいたします。

新聞報道などでも一部出ておりますが、この11月から乳価の価格改定がありまして、生乳1キ
ロ当たり10円の価格引上げが決まっております。また牛乳、ヨーグルトを入れる容器ですとか、
既に価格改定をされて、現在高くなった単価で苦しいながらも作り続けているような状況がござ
います。それらの状況を踏まえまして、お客様に9月の改定、つまり引上げを要請しなければな
らないタイミングではあると思っておりますが、現状田野畑の乳製品は決して安くはない水準ですし、
あとは値上げということが簡単に受け入れられる、あそこもここも値上げだからうちも値上げと
いうことだけでは説得力に乏しいので、そこを、あとは改定するときの引上げ幅というものもある
と思っておりますし、そういったことを今慎重に検討している最中ではございます。いずれ何らか
のアクション、お願いはしていかなければならない状況にあるということは重々認識しておりま
す。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 何とも誰のせいでもないというか、非常に苦しいところだと思いますので、
今副村長というか、理事長が答弁したように、慎重に進めていただければいいと思います。

あと商品のことなのですけれども、普通に販売とかというほかに、商戦があって、ギフトとい
うのがあって、あとイベント等々がこれからもあればいいのですけれども、ちょっとコロナでイ
ベントがいつもよりも減っているというふうな中で、例えばそのイベントを、行事というのです

か、こどもの日とか、おひな祭りとか、例えば敬老の日というのに合わせて、岩泉のお菓子屋さんとか、盛岡のほうには田野畑出身のお菓子とかケーキを作っているところもあるので、そことちょっとコラボして、行事の商品ですか、というのを出して、産業開発公社で、敬老会でおじいちゃん、おばあちゃんにプレゼントするようなものとか、子供にするようなものとか、ひな祭りにというふうなような、1年間の行事の中の各イベントにやっていくようなというのもちょうと、非常に大変かと思うのですけれども、考えていくのも、商品を開発したり、ほかのところと、村長の村民懇談会のときの答弁にもありましたけれども、もう1市町村では賄っていけないという部分が十分いっぱいあると思うのですけれども、そういうふうな他種とか、異種とか、近隣市町村のところのいろんな方と協力してやるというふうなことも考えてもいいのではないのかなと思うのですけれども、副村長イコール理事長なのですから、こういう考えはどうお考えでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 阿部副村長。

○副村長【阿部芳肇君】 お答えいたします。

他地域、他業種との連携ということにつきましては、私も必要性を感じておりまして、前職で幸いいろんな地域の企業様と知り合いになっているということもありまして、今まさにこういった形で協力できないかということを経つかの会社さんとお話をさせていただいております。産業開発公社は何も牛乳、乳製品を売るだけが仕事ではないと思っていますので、村内の埋もれている資源ですとか、活用すればもっと高く売れていくのではないかと資源がいろいろあると思っていますので、そういうことを可能であれば村内で、なかなか難しければほかの地域の方の力を借りてやっていくというふうを考えております。

あとは、村民に愛されてこそその村の製品だとは思っていますので、今お話のありましたように、子供たちにもっと乳製品のよさを知ってもらう機会ですとか、村民の皆さんが村外の方々に、もっと自信を持って、これ飲んでみてよ、これ食べてみてよというふうにできるような仕組みづくりについては、これから工夫してまいりたいというふうに思っております。近々、もともと産業まつりと呼んでいた村のイベントもリニューアルして開催する予定でございますので、そういった場も活用しながら、もっと愛される商品づくりといたしますか、村民の皆さんの参画の下に新しい商品ができていくような形の商品づくりなどもしていきたいというふうに思っております。

以上です。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 非常に楽しみだなと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思います。

あと認知症とフレイルのことで、ここに認知症とフレイルの人数が出ているわけですが、この方々は皆さん在宅で、何らかのサービスを受けて暮らしている人なのではないでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 健康福祉課、佐々木主幹。

○健康福祉課主幹【佐々木和也君】 お答えいたします。

答弁の中で、認知症高齢者が約150人、フレイルが40人ということで答弁いたしました。全ての方が介護のサービスを使っているというわけではありません。認知症高齢者約150人というほうは、介護の認定調査等で把握した人数になりますので、ほとんどの人が、こちらについては介護サービスを利用している。フレイルの40人というのは、介護予防教室等、介護認定を受けていない方の人数になりますので、サービスは受けていないということになります。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 150人は、皆さん在宅ですか。

○議長【鈴木隆昭君】 健康福祉課、佐々木主幹。

○健康福祉課主幹【佐々木和也君】 お答えします。

施設利用の方もいますし、在宅の方もいらっしゃいます。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 正確に把握するのが難しいところなのだけれども、国保データベースシステムによりというものがありますけれども、簡単にというのは難しいと思うのですけれども、これはどういうふうな感じで連動して、こういうふうに認知症とかフレイルが把握できるのかというところを説明をお願いします。

○議長【鈴木隆昭君】 健康福祉課長。

○健康福祉課長【佐藤和子君】 75歳になると後期高齢者ということで医療保険が変わりまして、その前は国保であったり、社会保険であったり、保険が変わるのですけれども、そこが変わったときの、今まで健診していたときの……

○議長【鈴木隆昭君】 答弁中ですが、もう少し大きな声でお願いします。

○健康福祉課長【佐藤和子君】 健診の結果と一体的に使用するということがなかなか今まで難しかった部分がありましたので、それを国保のデータベースシステムというところを利用して、健診の結果、後期高齢者になってからの健診の結果も引き続き利用できるようにというふうになって、事業を来年度から行おうとしております。

それから、健診の際に、今年度から高齢者の方々にアンケートといいますか、包括の職員が出向いて、こういうことはできますかとか、こういうのはどうですかというのを伺いして、その結果もこのデータベースの中に組み込みまして、来年度からは、そういう結果を一体的に利用できるようにというふうに考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 分かりました。システム上、年齢とか、制度上、切れるというようなところがあるのですけれども、そういうふうにずっと続いていって、いろいろなその人のデータ、健康データとかが入って、継続して管理できるようになるというのは非常にいいことだなと思います

ので、その中からまた見つけて、そこに見つかった人たちに集中的にでもないですけども、予防活動をすれば、急激に体力が下がるということがないので、予防策になると思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。

認知症サポーター養成で、私も小中学生にするのというのはすごくいいことだなと思うのですが、今年、田野畑小学校4年生を対象に実施する予定みたいなのですが、個々の学年を対象にというふうにした理由を教えてください。

○議長【鈴木隆昭君】 健康福祉課長。

○健康福祉課長【佐藤和子君】 小学校、中学校のほうにこういうことがありますよと投げかけをして、小学校のほうから4年生を対象に開催をしてほしいという要望がありましたので、開催することにしました。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 生徒さんたちに分かってもらうというのは非常にいいことだなと思いますけれども、役場の職員で、このサポーターを受けた方が何人いるかというのは把握していますでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午前11時00分）

再開（午前11時00分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

健康福祉課、佐々木主幹。

○健康福祉課主幹【佐々木和也君】 お答えします。

役場職員のサポーター、現在1名となっております。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 例えばコンビニとか、金融機関とか、役場の職員もそうですけれども、窓口対応で人と接するときに「あらっ」というような、振り込め詐欺とかもですけれども、ちょっとこの人はというふうな感じが分かって、それなりに危険から守るとか、あとちゃんとそれなりの機関に橋渡しをするというようなことで、結構企業さんでこのサポーターを養成しているのです。なので、村としても、全職員というのもしれないのですけれども、サポーター養成というのに取り組むものもいいのではないのかなというふうに思うのですけれども、村長はいかがでしょう。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 村民を守るということであれば、前向きに検討してみたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 ありがとうございます。私も何か自分もどっぷり足をつけているような感じなので、安心して、村民が村民を助けて見守ってやっていけるというシステムが一番いいのかなと思いますので、前向きによろしくお願ひしたいと思います。

教育委員会のほうに質問したいと思います。クラブの地域移行なのですけれども、いろいろ検討していただいているようなのですけれども、近隣市町村とかいろいろありますけれども、田野畑村としては、決められた年度内には何となく移行とかというのは、地域にとというのは、できるような見通しはありますでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 相模教育長。

○教育長【相模貞一君】 お答えをいたします。

何とか3年間、休日の部活動についての移行がありますので、できる限りその中でやれるというふうに思っております。

それから、少し他の市町村よりも先んじているなというものは、6つの部活があるのですけれども、それぞれに部活動指導員がもう配置されています。そのような形で、非常に地域の方々から応援をいただいておりますので、そのよさを存分に生かしてまいりたいと思っております。

また、どうしても田野畑村の場合、子供たちの数が減っております。なかなか希望に添うような部活が実施できない状況もありますので、何とかこの機会にもう一度部活動の在り方等も考えてみながら、子供たちに寄り添った部活動の在り方、そして村の方々の力を存分にお借りして部活動を運営していければというふうに考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 ありがとうございます。コミュニティ・スクールについても、コミュニティ・スクールはこういうことだよと、教振とかでいろいろ講師の人を招いて聞いたときもあるのですけれども、村がやっていることと何が違うのかなと自分も思ったら、もう村はやっているのだけれども、協議会をちゃんと立ち上げていなかったからということなのですから、今度は協議会もつくって、一から始めるわけではなくて、今まで地域の方々に協力してもらっているという土台もありますから、その辺では進めやすいのかなと思うのですけれども、学校運営協議会の中に、スポーツ少年団の指導員の方とか、そういう方たちもいるので、やっぱり部活動の地域移行というのは、やはり個々でもまれる、もまれるというのですか、どういうふうにしたらいいかというのは、やはり学校運営協議会のほうでも話題となって、解決に向けて話合いがされるというふうなことでよろしいのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 相模教育長。

○教育長【相模貞一君】 お答えをいたします。

そのとおりだと思っております。学校運営協議会の趣旨は、学校運営について、PTAの方々、それから地域の方々が一緒になって協議いたします。この言葉を文科省等では「熟議」という言

葉を使っています。本当に熟議を尽くすということで、そのことを通して、子供たちの教育をみんなでよりよくしていくということになっていきますので、当然部活動についても、熟議等もなされていくと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 7番、上山明美さん。

○7番【上山明美君】 ありがとうございます。教育委員会のほうも、分かってのとおり子供さんの数が、児童生徒の数は少なくなっておりますし、村民懇談会等々でも、やっぱり少子化ということが問題になっていて、そこにどのように取り組むのかなということがこれからの課題になってくるのかなとは思いますが、そこを考えた上でみんなで解決策を出していければいいなと思っております。

これで質問を終わります。

○議長【鈴木隆昭君】 これで7番議員の質問を終わります。

10分間をめぐりに休憩いたします。

休憩（午前11時06分）

再開（午前11時18分）

○議長【鈴木隆昭君】 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、8番議員の質問を許します。

8番、中村勝明君。

〔8番 中村勝明君登壇〕

○8番【中村勝明君】 議席番号8番、中村勝明です。食料品の値上げが無視できない、消費税増税に物価高で厳しい、そして節約も限界などの声が村内外で広がっているわけであります。今何よりも地方自治体に求められていることは、コロナ対策とともに急激な物価高に苦しむ住民をはじめ、住民各層、各分野の暮らしと営業を守るために、あらゆる財源の活用を視野に知恵を絞り、対策を講じることであります。

村の広報9月号と健康福祉課発行の8月22日のお知らせ版で、追加接種対象者の18歳から59歳までのワクチン接種、第3回接種後5か月経過している方々で基礎疾患を有する者など、3つの条件に該当する方々が4回目の接種を実施とありまして、さらに5歳と11歳までの小児接種も実施するとのことであります。

通告に戻ります。村内における直近のコロナ感染者数はどうなっているのでしょうか。今後のワクチン接種の見通しも、この際お聞かせを願いたいわけであります。

村政運営の2つ目は、高齢等による難聴者への補聴器購入補助についてであります。加齢等による補聴器購入への補助について、村長、そして担当課はどうお考えでしょうか。特に今はコロナ禍、高齢者もマスク越しで会話が聞き取りにくくなっております。そして、高齢者を孤立させ

ないためにも、認知症につながらないようにするためにも、その取組を厚労省が本気になって進めるべきなどの声のとみに強くなっているわけであります。この補聴器購入補助に対する村長の見解をお聞かせいただきたいわけであります。

村政運営の3つ目は、国民健康保険税についてであります。村長、そして村の担当者は、本村の国保税をどんなふうにお考えでしょうか。あくまで私の調査した範囲であります。盛岡市の場合、夫婦とも39歳以下、就労者が1人、就学児童が2人の4人世帯で年収400万円の場合、保険料を年額で試算すれば国保税が40万円、協会けんぽの保険料が半分の20万2,164円と、資料を頂いているわけであります。本村の場合はどんなふうになっているのか、お聞かせをいただきたいわけであります。

また、令和3年度から令和5年度までの3か年も、保険料率の水準等について、県と市町村とで3か年議論を行っている最中であります。これは通告してありませんが、答弁がなければ再質問で詰めたと思いますので、よろしくお願いを申し上げたいと存じます。

村政運営の4つ目は、副食費についてであります。3歳から5歳の子供の副食費に対する県内市町村の状況を資料で県会議員から頂きました。令和4年4月1日現在であります。全ての世帯に対する軽減措置が宮古市から九戸村まで19市町村、一部世帯、つまり国基準で副食費が徴収免除にならない世帯のうち、市町村が独自に設定する低所得世帯や多子世帯を軽減措置している自治体が11市町村となっております。残りの軽減措置のない市町村に我が田野畑村、滝沢市、紫波町の3自治体になっているわけであります。何らかの軽減措置が私は必要と思うのでありますが、どうでしょうか。

村政運営の5つ目は、福島第一原発汚染水の海洋放出についてであります。東京電力の計画によりますと、来年春には原発汚染水の海洋放出を始めるとしているわけであります。そして、第一原発の処理水を放出するための設備の本体工事が既に始まっているわけであります。ただ、原子力規制委員会は、ポンプなどの性能や異常時の放出停止方法、地震、津波対策などを、関係市町村の同意でありますけれども、認めたにすぎず、県と双葉、大熊両町も容認そのものを、無条件ではなく条件付きの合意なわけであります。こうした中で、全漁連、岩手県漁連も断固反対を貫き、中国など近隣国の反発も続いているわけであります。これからの見通しを佐々木村長はどうお考えでしょうか。

質問の第2は、産業振興対策であります。今物価の高騰が暮らしと営業を脅かしています。そして、ロシアによるウクライナ侵攻による原油価格、さらに建設業を襲う建築資材の高騰、これらの対策、そして第一次産業、村内事業者に対策が求められておまして、その対策の現況をお示し願いたいわけであります。また、今後村としての対策をどう検討しているかも、答えられる範囲でお答えをいただきたいわけであります。

産業振興の2つ目は、水田活用直接支払交付金の見直しについてであります。この件について

は、既に6月議会で、国に対する意見書を我が田野畑村も議決済みであります。交付金制度見直しによる村内農家への影響をどう村として把握しているか、お聞きしておきたいわけであります。

最後に、村内第三セクターのうち、サンマッシュ田野畑、甘竹田野畑の職員数について、最近の事業報告、決算報告に見えておりませんでしたので、できたらその職員数をお答えいただきたいわけであります。

佐々木村長当選以来、1年近くが経過いたしました。昨年9月の所信表明、そして今年3月予算議会での施政方針等で強調しておりました本村第三セクターについて、経営状況を、村長自身、どんなふう感想をお持ちでありますか。可能な範囲でお答えをいただきたいわけであります。

以上2点8項目、村民の当面する緊急課題を質問いたしました。村長、そして担当課の明確なる答弁を求めて、私の質問を終わります。

○議長【鈴木隆昭君】 8番議員に対する答弁を求めます。

佐々木村長。

〔村長 佐々木 靖君登壇〕

○村長【佐々木 靖君】 8番、中村勝明議員のご質問にお答えいたします。

まず、村内の直近の新型コロナウイルス感染者数についてでございますが、県の公表では9月8日現在69人となっているところでございます。なお、7月27日から県の公表の方法が変更となり、住所地市町村の実数が公表されております。それ以前の非公表分につきましては、村でも把握できていないところでございます。

ワクチンの接種状況についてでございますが、現在60歳以上の方の4回目の接種と60歳未満の基礎疾患のある方などの接種を行っているところでございます。接種率は、3回目接種までの時点で65歳以上が85.6%、12歳から64歳までが81.8%、2回目まで接種の5歳から11歳までが49.7%となっております。

ワクチンの接種に係る今後の見通しについてでございますが、国からはオミクロン株、BA.1対応ワクチンが9月下旬から配送予定との通知があったところでございます。オミクロン株対応ワクチンは、1回目の接種でよいものとされております。しかしながら、その後、10月下旬にはオミクロン株の派生株であるBA.5対応ワクチンが開始となる見込みであることから、接種対象者数と接種間隔なども含め、今後情報に留意しながら対応してまいりたいと考えております。

次に、補聴器購入補助についてでございますが、現在は身体障害者手帳を所持している高度・重度難聴者の場合のみ、補装具支給制度により負担が軽減されているところでございます。また、この制度の対象とならない18歳未満の軽度・中等度難聴者に対しては、岩手県独自の購入助成事業があり、本村もその事業を実施しているところでございます。

一方で加齢性難聴は、コミュニケーションを困難にするなど日常生活を不便にするほか、最近では鬱病や認知症の危険因子になることも指摘されているところでございます。このようなこと

を踏まえ、県や県議会では厚生労働省などに対し、加齢性難聴者の補聴器購入について、全国一律の公的支援制度を創設するよう要望したと伺っております。村といたしましては、その動向などを注視し、対応してまいりたいと考えております。

次に、国民健康保険税に関するご質問にお答えいたします。まず、国民健康保険税と協会けんぽ保険料についての比較でございますが、8番議員が示したと同様、夫婦とも39歳以下、就労者が1人、就学児の子供が2人の4人世帯で、年収400万円のいわゆる標準モデルでの試算によりますと、資産割の平均値を加えた場合、本村の国民健康保険税は年額33万2,558円となり、協会けんぽ保険料の年額20万2,164円よりも約13万円高く、およそ1.6倍の水準となっております。

また、これからの村の国民健康保険税の見通しについてでございますが、支出に対し収入が不足することのないよう、適正な税率水準を維持しつつ、県が進める保険料統一化の動向や医療費の推移を見極め、被保険者の負担をできる限り抑えられるよう努めてまいります。

次に、保育園の副食費についてでございますが、本村では保育園は副食の提供を行っておりますが、児童館は弁当を持参しているため、公平性の観点から、現在軽減は行っておりません。しかしながら、本年度につきましては新型コロナウイルス対策交付金を活用し、未就学児に一律1万円の給付を行ったところであり、副食費を含む保育負担の軽減につながったものと認識しているところでございます。

なお、令和5年度開始する認定こども園での副食費の在り方につきましては、村の厳しい財政状況等を考慮し、慎重に検討してまいります。

次に、福島第一原発の多核種除去設備等処理水、通称ALPS処理水についてでございますが、国の姿勢は計画どおり海洋放出を行うとしており、安全性に係る信頼を確保し、国際社会の理解を醸成していくこととしております。本村といたしましては、これまでの答弁と同様断固反対の考えに変わりはなく、引き続き関係団体とともに国等へ要望してまいりたいと考えております。

また、国の来年度予算の概算要求では、風評被害対策として農林水産分野や観光分野の予算が計上されており、これらの内容につきましても、詳細を把握した上で必要な要望等を行っていく考えでございます。

次に、産業振興対策のご質問にお答えいたします。まず、原油価格、物価高騰に係る一次産業者や村内事業者への対策についてでございますが、本村では新型コロナウイルス対策交付金を活用し、農林水産物安定生産支援補助金として、令和2年度から2年間で延べ263件、9,512万7,712円を交付し、農林漁家等への経営支援を実施してきたところでございます。また、中小企業者や個人事業主にあっては、売上げ減少や仕入価格の高騰など、基本要件を満たせば、原材料費や家賃等への支援として、県の物価高騰対策支援金を受けられることとなっております。

長引くコロナ禍やウクライナ情勢などにより、燃油、飼料、肥料、資材の価格高騰が止まらず、先が見通せない状況下であることから、本村におきましては、3回目となる農林水産物安定生産

支援補助金を今回の補正予算案に盛り込んだところでございます。また、燃油、資材高騰に係る一次産業者への緊急支援につきましては、本年度の県要望や町村会を通じて国への要望も行ったところでございます。今後も国、県、社会経済の動向を踏まえながら、村としても一次産業者等の生産活動を支援してまいりたいと考えているところでございます。

次に、水田活用直接支払交付金の見直しに係る村内農業者への影響についてでございますが、この交付金は、水田を活用して主食用米以外の作物に転作し、生産活動を継続する農家に対して交付されている国の制度で、本村では令和3年度に18名が370万円余りの交付金を受けております。

しかしながら、国では令和4年度から本制度を見直し、転作の用地において今後5年間一度も水張りを行わない場合は、令和9年度以降の交付金は対象外とすること、また収穫のみの採草地としている農用地は交付金を大幅に減額することとしており、これまで国の減反政策に協力してきた農家にとりまして大変厳しい内容と認識しております。村内でも、交付金がなくなると経営が苦しくなるという声が出ており、今後において、耕作放棄地や離農者の増加が懸念されているところでございます。

本制度の見直しに当たっては、現場の課題を十分に把握、検討され、制度の見直し、あるいは新たな支援措置を講じていただくよう、本年度の県要望や町村会を通じて国にも要望しているところでございます。いずれ、生産者が将来にわたり意欲を持って安定的な営農と農地の維持ができるよう、県や他市町村と連携を図りながら、引き続き要望活動を行ってまいります。

次に、村の第三セクターであります株式会社サンマッシュ田野畑と株式会社甘竹田野畑の職員数のご質問についてでございますが、まずサンマッシュ田野畑は、本年9月1日現在で正職員6名、パート14名、外国人研修生8名、アルバイト1名の計29名となっております。次に、甘竹田野畑でございますが、本年8月31日現在で正職員47名、パート3名の計50名となっております。

また、全第三セクターの経営につきましては、長引くコロナ禍や物価高騰等により依然として厳しい経営状況が続いておりますが、各社とも営業強化や生産コストの削減、人員確保など、安定経営に向けた努力を行っていると思っております。社会経済の急激な変化に対応し、村の就労の場を維持できるよう情報交換を重ねながら、一丸となってコロナ禍と経済不況を乗り越えてまいりたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 補充質問を許します。

8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 通告書の順番で再質問させていただきたいと思っております。

丁寧な答弁になったわけですが、ワクチン接種については、村の計画どおり進んでいるか、計画どおりであるか、まず最初にお聞かせをいただきたいと思っております。

○議長【鈴木隆昭君】 健康福祉課長。

○健康福祉課長【佐藤和子君】 計画どおり進んでおります。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 分かりました。

村政運営の2つ目、補聴器購入に対する村の考え方を通告したわけですが、通告に当たって、私は私なりに勉強させていただきました。47都道府県全部調べたわけではないですが、都道府県、各県によっては進んでいる地域、県、岩手県は進んでいないようなのですが、でも答弁が非常に立派な答弁でしたので、これからの見通しは明るいなと思ったのですが、まず村長に聞く前に、担当課は、制度による補聴器購入の補助は、全県に制度としてはあるのですが、何かの理由でなかなか決定をしていない。特に岩手県はそうだと私は実は思ったのですが、田野畑村を含めて、これから高齢化等によって、村内でもかなりの方々が困っているのです。演壇でも申し上げたわけですが、やっぱり補聴器に対する助成措置は、私は必要だ。財源の関係がありますので、村長も答弁しづらいとは思ったのですが、そこを覚悟の上で通告いたしました。村長に聞く前に担当課にお聞かせをいただきたいわけですが、補聴器助成に対しては、県とか、そういう会議等で、そういう動き等はないわけですか。担当課にお聞かせをいただきたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 健康福祉課、佐々木主幹。

○健康福祉課主幹【佐々木和也君】 お答えいたします。

高齢等に伴う難聴の方の補聴器補助の関係ですけれども、今のところ県の会議等でそういった話題になったことはございません。ただ、宮古圏域の担当者の会議ですとかで話題になったことはございます。県内で独自の補助をやっている市、村、合わせて3つあるのですが、その情報についてみんなでちょっと勉強したという経緯はございます。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 実は保険医協会という組織があるのですが、そこで各市町村議会に請願、意見書を出してほしいという動きがあったのです、3月から。ところが、勉強不足で、陳情書という格好で出したために、恐らく田野畑村では、請願で来なければ、陳情の場合は議員配付で終わってしまうのです。そのために採択にならなかった。でも、野田村議会は陳情で来ても中身を全議員で読んでみて、非常にいい中身だということで採択したようなのです。どういう理由でか、雫石町議会も採択になったのです。これは田野畑村の場合は、私は保険医協会で言ったのですが、これからいつの議会で議論になるか分かりませんが、無難なことは、陳情でなく請願で出してほしいという要望を出しておりますので、そういうふうになると思います。

それで、今の答弁、3自治体で実施済みというふうにご答弁したわけですが、よかったら市町村名を聞き、把握していたらお答えをいただきたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 健康福祉課、佐々木主幹。

○健康福祉課主幹【佐々木和也君】 お答えいたします。

補聴器の補助、独自でやっているところですけども、大船渡市、遠野市、九戸村の3自治体となっております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 最初に担当課から聞いて質問すればよかったかなと思ったのですが、これは村長も、財政の問題はあると思うのですが、答弁はどのような答弁でしたか。補聴器に対しては、3つの自治体で実施済みなわけですから、村長がその気になれば、財源はそんなにかからないと思うのです。要するに上限を定めればいいわけですから。今の答弁をお聞きしてどうお考えでしょうか、村長。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 議員ご心配のとおり財源問題もございます。どのくらい需要があるかも分かりませんが、高齢者の方々からは、移動の足に対する助成もしてもらいたいような意見も伺っております。全体を俯瞰しながら、バランスよく対応を取ってまいりたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 次に、国保税の問題については、今日は8項目でありますので、全部徹底的に質疑をするということになればちょっと時間が足りませんので、本当は国保税については、宮古市でやっている、陸前高田でも実施しているのですが、国の制度として、18歳までの子供たちの均等割免除、これ国の制度として半額助成を今現にしているわけですから、財源幾らもかからないのではないかと。宮古で聞きますと、そんなにかからないよというふうなことも聞いていますから、これは決算委員会で詰めたいと思いますので、一般質問では、国保税の問題はこれで終わりにしたいと思います。

4番目なのですが、副食費の関係です。このとおり答弁をいただいたわけですが、本村では保育園は副食の提供を行っておりますが、児童館は弁当持参。要するに、私が言いたいのは、求めているのは、来年度からも大きな課題でありますから、やっぱり児童館と保育園が統合になって認定こども園になるわけです。そうすると、弁当持参ではなくて、保育型、保育園型の運営になるわけですね。それは決まっていますか。どうですか。

○議長【鈴木隆昭君】 健康福祉課長。

○健康福祉課長【佐藤和子君】 保育型の認定こども園になります。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 つまり、そのために私は通告しました、村長。答弁は、「公平性の観点から軽減措置は行っておりません」、これは正論なわけですが、来年度、今回は9月決算議会ですから、来年度予算に連動する議論なのです、今。そう思って通告しているのですが、やっぱり副食費についても、答弁は「村の厳しい財政事情等を考慮して慎重に検討したい」、検討したいとい

う答弁を私は前向きに受け止めておりますから、ぜひ検討していただきたいわけですが、村長、いかがでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 答弁したとおりでございます。いろいろな財政とも相談しながら、やってあげたいことばかりですけれども、財政と相談しながら慎重に検討していくつもりでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 A L P S 処理水に移りたいと思います。恐らく村長もなかなか答弁するものつらいのではないかなと思うときもあります。国政の問題でありますから。国政の問題ではありますが、私は本村の漁師の将来に関わる重大課題だと思っているのです。そのために、国政の課題ではあるのを私なりに重々分かりつつ、何度も何度も一般質問しているのです。

宮古市の質疑を昨日傍聴に行きたかったのですが、行けませんでした。後で録音、録画を見たいわけですが、山本市長がどんな答弁をするのかなと思ったのです。私は、断固反対という佐々木村長の気持ちはこれでも理解しているつもりです。しかし、本当に真剣に考えるならば、村長自身の政治行動、これは私も党を名乗っておりますから、それぞれ政治家は自由なわけですが、海洋放出断固反対の佐々木靖村長は、政治的に見て、参議院選挙もそうです。衆議院選挙もそうなのですが、自分自らの政治行動に、A L P S 処理水の海洋放出に断固反対の態度と政治行動には、全く矛盾は感じていないわけですか。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午前11時55分）

再開（午前11時56分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 福島原発の処理水放出決定反対、恐らく推測で恐縮ですが、佐々木靖村長が支持する国会議員、今大臣なわけです。こう言ったら誰も分かると思うのですが、閣議決定に参加している大臣が、福島第一原発の処理水、汚染水放出決定に判こを押しているわけです。議会で何度も何度も断固反対の態度を取っております佐々木村長は、その政治行動と矛盾を感じませんか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 大臣の話も出ましたけれども、それぞれの立場でいろいろな考えもあるのだろうと思います。私の場合は、風評被害も含めまして、安全面も考えまして、やっぱり放出はするべきではないという考えでございます。一市町村が国に対して意見を申してもなかなか通るものではないということで、沿岸の市町村では、三陸連携会議ですか、そういうものを組織して

いまして、2年ごとに市で事務局を持ちながら要望、対応しているところでございます。

本年度につきましては、久慈市長さんが代表を務めていまして、その活動として、この間は国のほう、3か所を回って海洋放出反対という行動、要望をしてきたという報告が回ってまいりました。その活動の報告を見ますと、どの省庁、行った先々でも、稼働している原発でも放出しているレベルまで薄めて放出するので問題はないという回答でございました。そして、その対策として、3,300万円の基金があるので、そっちを活用したらどうかという回答をもらったという報告が来ております。岩手県沿岸の市町村といたしましては、久慈市長と同じ立場でございまして、代表して久慈市長がそういう行動、要望したと認識しております。皆、沿岸市町村の考えは同様だと思いますけれども、実質的に国のほうは計画どおり着々と進めていくのだなというふうに思っておりますけれども、やっぱり反対は反対ということで声を上げていきたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 なかなか村議会でこれを詰めた議論をやるのは、私もそれこそ汗が出るわけですし、これ以上は長々と時間は取りませんが、やっぱり村長、岩手県全体の漁業組合の組織の究極であります全漁連、全国漁業協同組合連合会、全漁連ですね。全漁連を中心とする会合の中で、関係者の理解なしには絶対海洋放出はしませんという覚書をやっているのです。それを全く、約束をほごにして、放出決定しているわけです。私はここに大きな大きな問題を感じているのですが、それを質問しても答弁は容易でないでしょうから、質問は、やめませんが、私は海洋放出だけが解決策ではないと思うのです。広い面積を持つタンクに今ためているのです。ところが、どういう思惑があったか、私ごと、素人はよく分かりませんが、小さいタンクを造って、タンクが余ったという宣伝をしているのです。石油備蓄基地のような大きなタンクを造れば、まだまだためるにもよかったですし、そういうのを専門家が随時新聞発表したり、専門雑誌に発表しているのです。そういうふうな提案はする気はないでしょうか。何らかの機会に発言をするお考えはありませんか。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午後 零時02分）

再開（午後 零時02分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 特段個人的に発言する考えはございません。ただ、考えは皆、沿岸市町村一緒でございまして、そのとおり反対しながら要望活動もしていきたいというふうな意思統一の下、そうやって行動しているというふうに考えております。余談でございしますが、前にもしゃべったかもしれませんが、安全、安全だと言うなら東京湾に放流してくれということもまた一方で

正論だとも思います。それを何で東北に押しつけるのだという考えもございませぬ。そう言ってもなかなか国のほうにも通らないと思ひますので、沿岸市町村一致団結して反対活動、要望をしていきたく。今後につきましても、そのように対応していきたくと思ひております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 福島原発は、以上で終わります。

では、産業振興対策に移りたいわけですが、産業振興課に要望をしておきたいわけですが、私もコロナ禍における物価高騰等に対する村の支援策、ちょっと不勉強、通告が不十分だったなど反省をしているわけですが、令和2年度から2年間で、答弁がありました。263件、9,512万7,712円の交付を既にしてているということなのです。大変恐縮ですが、今さらですが、今さらながらですが、経営支援を実施した一覧表か何か、資料を作ってください、よかったら、可能であったら資料提供していただきたいと思ひますが、いかがでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午後 零時04分）

再開（午後 零時04分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 そうすると、次の件の物価高騰対策支援金についても同様の議論になると思ひますが、これは要求をしません。3回目の独自支援補助金1,800万円、補正に出ているのですが、これは13日の質疑になりますので、これは一般質問からは外したいと思ひます。

水田活用直接支払交付金見直しです。これは、これまで18名が令和3年度に交付金を受けているという答弁なわけですが、この交付金の見直しについては、令和9年度以降対象外、これは、答弁は具体化はまだしていない、まだ把握していないのかな。影響が当然あると解釈していいわけですか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐藤智佳君】 お答えいたします。

支給が、令和9年以前の間にも一回も水張りをしていないものについては、9年度からは支払いませんというような見直しでございまして、水張りができない条件のところもございませぬので、村内においてもやはり大きく交付金が下がるという対象者もございませぬので、影響が出てくると認識しております。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 私、電話をいただいたのですが、こんなばかなことはないと思ひます。村も、国のやり方はおかしいと、担当課も、恐らく村長さんも副村長も思っていると思ひますが、

これは例外を設けるべきという要求を出して、だって今から水張りも、水田を作りもしないのに水張りをする、こんな施策を国策として許していいのでしょうか。既に議会議決はしておりますから、これはぜひ村長、それこそ支持する国会議員でも、それこそこんなときこそ使って、どんなことがあっても影響が出ないように頑張るべきではないですか、村長。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 町村会で水田対策室長を招いて勉強会をしたことがありました。その際、対策室長は、マスコミにちょっと間違った報道をされてしまったというふうな話でございました。5年水田に水を引かないと駄目だよというようなことではなくてというような話でした。沿岸よりは内陸の市町村等が影響が大きいわけで、内陸の首長さんたちは手ぐすね引いていろいろやろうと思った矢先にそういう説明がされて、ちょっと腰倒れになったのかなというふうに見てまいりました。

というのは、水田活用直接支払交付金、要は水田だから交付金を出すのだよということが前提だったようです。5年以上も水張りしなかったら、それ水田ではないのではないかということで会計検査院からも指摘を受けて、返還等に至った事例もあったという説明でございました。ただ、であればいずれ各市町村は農家を守って、農家をやめないように、耕作放棄地が増えないように、いろいろ手だてを打って、農家を手厚く、手厚くというか、守ってきたわけでございますので、そういう視点でもって何とかできないのだろうかというご相談もあったように伺っております。内陸のほうでは、リンドウだとか、ワラビとか、転作している状況がある市町村があります。リンドウであれば7年間、植えて7年間水を入れられないということもございまして、いろいろ訴えてございました。そういう制度を、いずれ国のほうでも水田なんかではなくて、要は農家が水田でなくてもいろいろ農作物を作っていけるような、そういう支援とか、助成制度、転作制度を新たに創設していただければいいのかなというふうなことで聞いておりました。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 要望ですが、ぜひ頑張っていただきたいと思います。

第三セクター、最後に少し決算委員会になる前にご対応いただきたいわけですが、私は通告にサンマッシュと甘竹について、一般質問で職員の数を通告する、ちょっと恥ずかしいような気持ちもあって、それでもあえて通告したわけですが、思ったよりあれですね、サンマッシュにしても、甘竹にしても、職員数が増えていません。職員数が増えるから立派な企業、一概には言えないと思うのですが、私が何年か前に把握した職員数から見ると、私の想定よりは、サンマッシュで、私が直近に調べられる範囲で、決算書を調べた範囲では、35人、36人で推移していたのが今は29名です。やっぱりコロナのためかな。何が原因だとお考えでしょうか。甘竹も、私が直近で、一番直近の数が、62名という甘竹があったのですが、今50名。10名以上減っているのです。増えることはあっても減ることはないというふうに想定をしていたのですが、村長は理由をどうお考

えでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 様々理由はあるかと思いますが、各三セク等でも、職員、従業員募集ということで募集をかけているようですが、なかなか応募がないというのも実情のようでございます。高齢の方々にもまだ引き続き働いてもらっているような状況もあるかと思いますが。また一方で、サンマッシュさんでは、外国人実習生を呼び込む予定でしたが、コロナ禍でなかなか入ってこれなかったということで、3番目というか、1回、2回取って、3回目以降は菌床を捨ててしまうというような状況もあったようでございます。いずれ、募集してもなかなか応募がない、あと外国人実習生も入ってこないというような状況で、現在の数字になったのかなというふうに思います。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 実は全第三セクターという通告でありますから、公社の理事長は今副村長がやっております、理事長に、最後の方になりますが、率直なご意見をいただきたいわけですが、上山議員に対する答弁は、先ほどしっかりお聞きいたしました。経営陣も替わりまして、職員も何人か交代になっているのです。新しい理事長になって4月就任、専務理事も7月からという状況で、3月、4月当初に立てた事業計画はそれなりにあったと思うのですが、新しい役員体制の下で、新しい理事長、新しい専務理事を迎えて、何か経営に変化等々があるか否か、答弁はあのおり聞いたのですが、理事長として抱負を含めてお聞かせをいただきたいわけですが、どうですか。

○議長【鈴木隆昭君】 阿部副村長。

○副村長【阿部芳肇君】 お答えいたします。

私が、公社の理事、理事長になったのは5月31日からでありまして、それ以降ということになります。7月からになります。組織マネジメント力の向上などを図るために、公社の課長職以上の幹部会議というのを定例開催するようにしまして、各組織、各課が問題意識を持って従業員と当たり、あとはそれを役員に報告し、そこで指示を仰いで組織を回していく。また、自分の部署だけではなくて、ほかの部署、ほかのところ、会社全体に対しても意識を張り巡らせて運営に当たっていくといったようなことをしましたし、あと先ほどのご質問にもお答えしたとおりではあるのですが、内部の情報処理システムの強化といったような、組織の根幹に当たるような事項の見直しをまずは進めているところでございます。

以上です。

○議長【鈴木隆昭君】 8番、中村勝明君。

○8番【中村勝明君】 時間がないと思うのですが、サンマッシュについて細かいことで恐縮ですが、外国人研修生8名という答弁を村長がなされました。私は、この外国人研修生、「研修生」がつ

いているのです。「研修生」がつくと、何となく待遇面が違ってくるといふふうに思うのですが、これは取ったほうが、そして本気になって働いてもらったほうがむしろ会社にとってもいいと思うのですが、村長にお聞きするのも、でも第三セクターのある面では、責任は当然あると思いますので、答弁できる範囲でお答えをいただきたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午後 零時 17分）

再開（午後 零時 17分）

○議長【鈴木隆昭君】 では、再開いたします。

佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 国の制度にのっとって受け入れている研修生でございます。技能実習生だとか、いろいろ呼び方もあるかと思いますが、そういうことで研修生というふうな呼び方をしていると認識しております。

○議長【鈴木隆昭君】 これで8番議員の質問を終わります。

昼食のため1時間休憩いたします。

休憩（午後 零時 18分）

再開（午後 1時 18分）

○議長【鈴木隆昭君】 休憩前に引き続き会議を開きます。

一般質問に入る前に、答弁の訂正があるようでございますので、発言を許します。

佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 午前中、8番議員のALPS処理水に係る質問に対しての答弁の中で、風評被害対策の基金の金額を300万円と申し上げましたが、300億円の誤りでございますので、訂正しておわび申し上げます。

○議長【鈴木隆昭君】 次に、5番議員の質問を許します。

5番、佐々木芳利君。

〔5番 佐々木芳利君登壇〕

○5番【佐々木芳利君】 5番議員の佐々木芳利です。3点について、当局の説明を求めます。

1点目は、ふるさと納税であります。佐々木靖村長の選挙公約でありましたふるさと納税に対する返礼品対応が昨年12月3日から始まり、9か月が経過をいたしております。納税実績と希望の高い返礼品の傾向について説明を求めます。

2点目は、畜産、酪農家対応についてであります。畜産、酪農家は現在、飼料、肥料、燃料価格の高騰、さらには初生子牛価格の暴落等、経営の危機にあります。国、県の動向を踏まえ、村

としての対応策があれば示されたい。

最後の質問は、遊休農用地の利活用についてであります。現在遊休農用地が増加しており、今後とも増えると思われます。今後における利活用策を検討しているかどうか、お伺いをいたします。

以上、壇上からの一般質問を終わります。

○議長【鈴木隆昭君】 5番議員に対する答弁を求めます。

佐々木村長。

〔村長 佐々木 靖君登壇〕

○村長【佐々木 靖君】 5番、佐々木芳利議員のご質問にお答えいたします。

まず、ふるさと納税についてでございますが、本村では令和3年12月3日からふるさと納税に対する返礼品事業を開始したところでございます。寄附実績につきましては、返礼品を希望した寄附金が令和3年度は248万5,000円、今年度8月末時点で227万4,000円となっており、合計では475万9,000円となっております。このほかに返礼品を希望しない寄附金もあり、この期間の田野畑むらづくり基金への寄附総額は725万4,950円となっております。

また、希望の高い返礼品でございますが、村のホームページにおいて、現在17商品を用意しておりますが、一番人気の商品は、田野畑村産業開発公社が出品するのはた牛乳・ヨーグルトセットでございます。個数で返礼品全体の約4割となっております。その他の乳製品も比較的多く選ばれている状況となっております。出品事業者ごとでは、田野畑村産業開発公社が約65%、道の駅たのはた思惟の風が約25%、その他の事業者が約10%となっております。

なお、今年度につきましては、数量限定で生ウニを出品したところ、反響が大きく完売したところであり、今後も事業者と連携しながら、村の魅力を発信できる商品の開発と寄附額の増額に努めてまいりたいと考えております。

次に、産業振興についてのご質問についてお答えいたします。まず、畜産酪農家への対応策についてでございますが、8月30日に生産資材や農産物の価格変動を表す7月の農業物価指数が農林水産省から公表されました。これによりますと、2020年の平均価格を100とした場合、飼料が146、肥料が141.8、生産資材が119.2トンと、いずれも前年を大きく上回っている状況でございます。また、ホルスタイン種の初生子牛は78.3と大変な価格暴落となっており、飼料や資材価格の高騰から、肥育農家の買い控えが影響していると考えられております。

このような中で、肥料高騰対策につきましては、国が秋肥と来年の春肥への支援金を決定しており、農家に対しては購入先のJA等を通じて支給される予定となっております。飼料高騰対策につきましては、国の配合飼料価格安定制度において補填金が交付されているほか、県は6月定例会で配合飼料価格安定緊急対策費補助を決定したところでございます。

本村におきましては、8番、中村議員にもお答えしたとおり、3回目となります農林水産物安定生産支援補助金を今回の補正予算案に盛り込み、上程したところでございます。今後におきま

しても、国、県の支援動向を踏まえながら、近隣市町村との情報交換を図り、村としての支援策を検討してまいります。

また、飼料については、輸入飼料の価格高騰に伴い、国産飼料への注目が高まっております。今後も、長嶺牧野での乾牧草の生産、供給などを通じ、畜産酪農家が安心して経営できる体制を整えてまいりたいと考えております。

次に、遊休農用地の利活用策の検討についてでございますが、令和4年5月に国会において農業経営基盤強化促進法等の一部を改正する法律が成立し、市町村は令和7年3月末までに、農用地の効率的かつ総合的な利用を図るための地域計画の策定及び担い手ごとに利用する農用地等を定めた目標地図を作成することが求められております。今後は、国の要綱、要領等が決まり次第、県、農業委員会、村等関係団体が一体となり、遊休農用地の利活用等を含めた今後の農業につきまして、村内各地区で話し合いを進め、その合意形成に基づき適切な事業の活用について検討してまいりたいと考えております。

○議長【鈴木隆昭君】 補充質問を許します。

5番、佐々木芳利君。

○5番【佐々木芳利君】 返礼品について、これはある意味間接的な見方になりますが、田野畑村にどのようなイメージを抱いているのか。県外の方が田野畑村に何を期待しているのかというのが、返礼品動向である程度はつかめるのではないかと、アンテナショップ的な感覚で私は捉えていたのです。やはり乳製品というと、あとは海産物ですか、生ウニの評価が高かったりというような感じになります。

それで、2点目とも関連しますが、乳製品、私はこの乳製品という項目で非常に危機感を感じているのです。今1日に公社が受け入れている数量は幾らですか。担当課長のほうが現場は詳しいでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午後 1時30分）

再開（午後 1時30分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

阿部副村長。

○副村長【阿部芳肇君】 牛乳用の生乳で日量4トンほどというふう把握しております。

○議長【鈴木隆昭君】 5番、佐々木芳利君。

○5番【佐々木芳利君】 決算資料、タブレット掲載になっております。これでいくと4年度までしか、今日現在は分かりません。4年度決算でいくと、89万6,955キロ、日量約2.5トンの生乳、乳製品加工の受入れをしている数字が出ております。これまでの平成でいくと、平成最後ですか、

30年は日量2,887キロ、これは台風災害でもって、岩泉乳業が営業停止をしたと。それで代替加工した時期なのです。それで、日量約2.5トン、2,500キロ、この牛乳の生産の基は、今3牧場から公社には入っていると思います。そうすると、概算ですが、1頭当たり25キロ、日量25キロ平均の搾乳量だと思います。実際にはもうちょっと多いと思いますが。そうしますと、毎日3牧場から約100頭の搾乳牛を処理しているわけです。それで、それが約20頭くらい今余裕が、余裕と言えば変ですが、100頭で25トンだと、今120頭から130頭ぐらいの搾乳牛を3農家で飼っているのです。そうしますと、28トン、この災害の頃の処理量にいくと、その時点で今の3農家の生乳生産100%になるのです。果たしてこの搾乳量が将来とも維持できるのかどうか。

やはり田野畑村に対する期待というのは、これはいろんな市販牛乳のパッケージで、これは普通に並んでいます。そうしますと、例えば岩手県の工場で加工しても、国産という表示はあるのです。他県からも来ているということなのです。それから、北海道は北海道産という表示もあります。岩手県は、岩手県産という表示もあります。たのはた牛乳も岩手県産になっています。その中で、ここに田野畑村の大自然の中で育てられた牛乳と言っているのです。岩手県産の中でも単独市町村の牛乳を加工しているのはたのはた牛乳だけです。足りなくなれば全農いわてからの買入れですから、物は入ります。いつまでこの100%、田野畑産の牛乳をお客様に提供できるのか、非常に今危機的な状況なのです。これでもって一農家で、例えば病気が発生したとか、ちょっと牛が体調を崩したという、果たして田野畑産100%を売り物にできるのかどうかです。近隣町村の牛乳加工さんも、微妙に隣の町村から行っているわけです。これは、全農の集乳ローリーのルートがありますので、やむを得ない部分もあります。ただ、田野畑の公社に対しては、村内牛乳、3農家を集乳してきて、公社に卸して、そして残ったところを集乳して、乙茂のプラントに持っていくという、そういった流れになっているのです。

ですから、例えば良質粗飼料の供給というようなことになっていますが、肥料価格の高騰であれば、長嶺牧野は肥料費が、同じ品質のものを同じ収量を上げるのであれば、生産コストが上がります。ですから、牧野の業務委託にその金額が反映して、同じような品質のものでたのはた牛乳を維持するのか。予算の関係で、前年度並みの予算でもっていくのか。これは、公社さんは公社さんで独自で、先ほどの理事長の営業内容について、頑張っておられるのは理解できます。あとは村が、行政が、どのような方向性、どういう対応をするかが大きな焦点になると思うのです。販売促進にしても、田野畑産100%の製品というのは限界があります。その辺をどういう方向性に将来考えたらよろしいでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 たのはた牛乳は、私も小学生の頃だったか、中学校だか、それからずっと給食等で飲んできている、田野畑を代表する産品だと思っております。それからいろいろな時代の変化がありまして、農家数が激減しているというのもまた理解しております。ただ、やっぱり

こうやってふるさと納税の返礼品でも結構人気があるということで、定着しているのだなと思いますので、ぜひこれを維持だけでなく、できれば拡大する方向で今後対応していければなというふうに考えておりました、公社等と相談しながら進めていきたいと思っております。

○議長【鈴木隆昭君】 5番、佐々木芳利君。

○5番【佐々木芳利君】 牧野について、粗飼料の生産、これは3月議会にも私は言いました。公社の役割は、製品販売も大事ですが、本来は、それ以外が5割必要ではないかという発言を私はしておりますが、どうなのでしょう。今の預託方法、牛舎がたしか40、今公社始まって四十八、九年経過したかと思いますが、これをそのまま継続なのでしょう。それとも、冬の間の牛舎については、どこかもうちょっと条件のいい場所を選択し、今の牧野は夏山、夏放牧地とかです。その時期によっては、70頭前後の預託牛に対して、タンクを使って水を運ぶような事態もあって、決して牛にとってはいい条件とも思えないわけですが、それから建築確認の見直しによって、畜舎牛舎、それから農機具舎、堆肥舎は、簡易的な低コストの建築もできるわけですよ。どうなのでしょう。少なくとも10年後の見込みについては、農家の意向調査とかいろんな確認作業とかは始まっていますか。何もまだそこまでは進んではいないのでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐藤智佳君】 お答えいたします。

大変な将来にわたっての大きな課題だと認識しておるところでございますけれども、牧野の草地の関係含め、それから牛舎改築、また増築、今畜産公共事業も活用できないかというようなことで検討を進めているところではあります。一方で、まずは使っていただく方々がこの先将来どうなるのかというのが大きな問題にもなってきますので、この刈取りの時期が終わった秋以降、農家さんのほうとも懇談会をやってまいりたいなと思っております。いずれ、現況についてはご承知のとおりかなり厳しい施設であります。牛にとっても環境は非常に良くないとお伺いしておりますので、何とか前向きに検討していきたいなと思っておりますのでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 5番、佐々木芳利君。

○5番【佐々木芳利君】 大変改善検討についてはありがたいと思っております。ただ、今の村の財政状況においても、果たしてどの程度の投資がいいのか。では、その投資したものは何年間有効活用できるのかというような問題もありまして、確かさっきの話は畜産クラスター事業ですよ。

○産業振興課長【佐藤智佳君】 ではない。

○5番【佐々木芳利君】 違いますか。岩泉町が、大牛内に今育成牧場があります。あそこで本当は搾乳までというような当初の構想はあったのですが、つまり地元産の牛乳だけではもう間に合わない。販売促進したところで間に合わないということで、搾乳まで一遍考えた経過もあったのです。ところが、田野畑からその辺をカバーしてくれるだけのめどがついたということで、育成牧野専門で育成だけになっていますよね。今200頭ぐらいで、預け入れる余裕は全然ないですという

ような感じで運営しているはずですが。

ですから、どうなのでしょう。別にどこの工場にやったからいい悪いではないのですが、田野畑もうまくすれば地元産、たのはた牛乳が継続、それから処理拡大もできるチャンスはあります。ただ、1か所、1点、外国産の粗飼料、濃厚飼料ではなく粗飼料のほうです、を使っているわけです。そこでもって経費高騰もあります。ただ、外国産というのは、天候が安定していますから、本当の乾燥といえ、最高の乾燥が、品質のいいのが入ってくるわけです。ただ、国産との価格差がなくなってくると、粗飼料の国産需要も出てくると思うのです。そのときに果たして牧野が準備をして、対応、粗飼料供給をできる体制が取れるかどうかです。これは将来投資になりますので。

それから、今の3酪農家については、今現在は100%受注粗飼料で賄っておるわけですが、新規の方に対する対応策をどのようにできるのか、ひとつ慎重に、それから酪農家に対して、10年後の見通し、20年後の見通しですか。やはり簡易牛舎とはいっても、20年くらいは耐用年数があると思いますので、いかに低コストにするかです。ひとつ貴重な財源ですので、酪農家の意見交換の上でじっくりと検討して、よりよい成果に結びつけていただきたいなと私は思うわけです。

それから、遊休農用地ですが、農業経営の基盤強化促進法が答弁にはうたわれておりますが、私が気になったのは、農山漁村活性化法の改正、こっちのほうは田野畑においては、農地を省力的に維持管理する取組支援、最適土地利用対策事業、こちらのほうがすぐ対応できるのではないかと思います。これも一方的に意見を押しつけるのではありませんので、お互いに勉強し合いながら、最善の方法を目指していただければと思います。もしかすればこれで対応することによって、ある程度シルバーの皆さんの力もお借りできる可能性は多分にあります。

それから、どうしても遊休農用地ですので、民家の周辺が対象になりますので、野生動物被害対策にもつながってくるのではないかなと思います。これでいくと、例えばこの事業でいくと、いろんな2つか3つぐらいの補助金というか財源的なめどもつくのではないかという気がするのです。ですから、もしよろしければ庁舎内の検討、あるいは地区を巻き込んだ検討にいただければありがたいと思います。

それから、午前中、副村長が地区懇で回った地区の感想を述べられましたですか。確かにそのとおりですが、ただこれは前にも、前の前の組長さんのときも話ししているのですが、やはりその地区、地区に問題点というよりも、例えば野菜にしても何しても、宝的な部分が、伝統野菜地域、その地域の独特野菜等もあると思うのです。その辺の発掘もしながら、道の駅の商品化開発につなげることもできるのかなと思っているのです。一例としては、北海道のどこかの開拓地の、開拓民のパワーを支えたと、ピンクにんにくという、ご存じないですか。外の皮が普通は白なのですが、あれがピンクなのがあるのです。そのピンクにんにくがあって、やはり5年か6年かけて増やして育成するというような動きがあるのです。これも確かに臭いは強いですが。子供の頃の

記憶を探して、私も畑の隅を探したのですが、ありました。それで20球、先日植えました。

ですから、やはり何か使用価値のあるものをちょっと増やして、そしてストーリーを大きくして、いろんな田野畑村のPRにつなげられないのかなと思って、単なる参考の提案ではありますが、新商品開発というのは、やはりその地域のもの、伝統的なもの、それを探るのも一つの手法かなと思います。その点はいかがお考えですか。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午後 1時51分）

再開（午後 1時51分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

答弁を求めます。

佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 いろいろなお助言、具体的なアドバイス等いただいてありがたいことだと思っております。酪農家との懇談会もまだやっておりませんので、腹を割った意見、意見交換、また10年後どうなっているのだというのも含めまして意見をいただきながら、長嶺牧野の、また施設整備等にも反映していきたいと思っております。

あとその地域独自の野菜、それもまた本当に魅力的な商品だと思っております。全国一律の野菜につきましても、大きなところに負けてしまいますので、地域の独自の光輝くようなものを発掘しまして、それを売り出していく、ストーリーをつけて売り出していくと、本当に全国で輝いている地域がそんなことをやっていると思っておりますので、ぜひまたアドバイスも受けながら、一緒に知恵を借りながら進めていきたいと思っております。よろしくお願ひします。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長、補足ありますか。

産業振興課長。

○産業振興課長【佐藤智佳君】 少しだけお話しさせてもらえればなと思っていました。地域の特色のある野菜、それこそ今年度、地ニンニクというのですか、「地元」の「地」に「ニンニク」というふうなことで、少し当課でも考えていたところがありました。少し小さめのニンニクなのです。スーパーで売っているのは少し大きめのニンニクなのですが、かつては田野畑村でも地ニンニクを植えていたというふうな話も伺ってまして、ちょっとそこら辺を掘り下げながら、また関連するもの、今野菜に関しては少量多品目のほうが興味を引いていただける、それにいろんなものをいっぱい並べたほうが興味を引いていただけるということもあって、野菜のほうについても力を入れてまいりたいと思っております。

ふるさと納税についても、実を言うと総務省の規定がございまして、主成分、主になるものが地元のものでなければならないというのがあって、そうでないと返礼品に使用できないというような

規則、ルールもございますので、そういったことも考えながら取り組んでまいりたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 これで5番議員の質問を終わります。

10分間をめぐりに休憩いたします。

休憩（午後 1時54分）

再開（午後 2時06分）

○議長【鈴木隆昭君】 休憩前に引き続き会議を開きます。

次に、9番議員の質問を許します。

9番、佐々木功夫君。

〔9番 佐々木功夫君登壇〕

○9番【佐々木功夫君】 議席番号9番、佐々木功夫です。9月定例会に当たり、議長の許可を得たので、議会規定に基づき一般質問を行います。通告してありました村政運営について、2点ほど質問をいたします。

まず最初に、昨年村長選が行われた、その佐々木村長の選挙公約について伺います。村長に就任し1年が経過しましたので、私は改めて選挙公約に目を通しました。全ての公約を1年や2年で実行できるとは承知していませんが、しかし任期中に現実的に達成できるものとできないものがあると思いますが、どのように把握しているのか伺います。

選挙公約は、大きく4点に分かれています。最初の第1点については、「人口減少・少子高齢化対策を強力に進めます」と、こう明記されています。これに関するものは、個々には申しませんが、この関係で8項目となっております。公約の第2点については、「活力ある産業の振興を図ります」と明記してあります。この関係で、水産関連3点、農林畜産関係3点、観光商工関連3点の合わせて9項目となっております。次に、公約の第3点については、「各自治会の活性化を図ります」がそれぞれ2項目、そして最後の公約の第4点には、「持続可能な行政改革を推進します」がそれぞれ2項目となっております。以上、これらについて、達成状況と未達成のものについて、今後どのような対応をするのか伺います。

村政運営の第2点目は、ナラ枯れ病についてです。特に村内海岸部にナラ枯れ病が異常発生している状況を当局も当然ながら把握していることと思います。一目見ても分かるような状況なので、その対策が急務と思いますが、どのような対策を今後していくのかについてお伺いいたします。

以上ですが、明快な答弁を求め、この席での質問を一旦終わり、再質問については自席において質問させていただきます。

○議長【鈴木隆昭君】 9番議員に対する答弁を求めます。

佐々木村長。

〔村長 佐々木 靖君登壇〕

○村長【佐々木 靖君】 9番、佐々木功夫議員のご質問にお答えいたします。

まず、選挙公約についてでございますが、私が昨年8月の村長選挙の際に掲げた主な公約は、大きく次の4点となっております。1つ目は人口減少と少子高齢化対策、2つ目は活力ある産業振興、3つ目は各自治会の活性化、4つ目は持続可能な行財政改革の推進でございます。具体的な取組についてでございますが、既に実施済みの事業は、出産祝い金であるエンゼル祝い金の創設、小学校、中学校の給食費の無償化、ふるさと納税返礼品の実施でございます。また、村民懇談会の各地区での開催も、各自治会の活性化を図る一環として行ったものでございます。

その他の取組につきましては、主なものをご説明いたしますと、保育園と児童館を一体化した認定こども園の設置につきましては、来年4月の開設に向け準備を進めており、今議会にも必要な予算案を上程しているところでございます。また、田野畑ワカメのブランド化に向けましては、先月、田野畑ワカメブランド化推進協議会の設立準備会を開催し、関係者が一堂に会して課題と方向性の共有を図ったところであり、今後正式な協議会の設置により、具体策の検討を図っていく考えでございます。

道の駅の経営安定や第三セクターの健全経営に向けましては、新型コロナウイルス対策交付金などを活用しながら、商品開発、誘客促進、営業強化等の取組を実施しているところでございます。

ご質問の達成率でございますが、現時点では進行中の取組が多く、達成率という形での把握は困難なものと考えておりますので、ご理解を賜りたいと思います。公約は、任期4年間を通じて掲げたものでございますので、1年で100%達成とはまいりませんが、全ての項目について実施に向けた検討に着手しているところであり、今後具体的な成果を順次お示ししていきたいと考えております。

次に、ナラ枯れ病対策についてのご質問にお答えいたします。まず、本村では平成30年度に北山地区でナラ枯れ被害が初めて確認されてから、年々その被害量は海岸部を中心に急増している状況でございます。この間、本村におきましては、森林病虫害等駆除事業補助金や村単独の予算を措置の上、伐倒薫蒸や立木薫蒸といった被害防除対策に努めてきたところでございます。しかしながら、海岸部では急傾斜地が多く、人的作業が困難な箇所もあることから、依然として全量駆除には至っていない現状となっているところでございます。

今後におきましても、被害対策は急務であり、引き続き国や県の補助事業制度を活用するほか、村におきましても森林所有者に対して補助制度の創設を検討し、被害木の伐採除去はもとより、感染前のナラの早期伐採を推奨することにより、海岸部はもとより内陸部の被害防止に努めてまいりたいと考えているところでございます。

○議長【鈴木隆昭君】 補充質問を許します。

9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 いわゆる村長の公約関係の中で第1点の部分でうたっている三陸海岸道路を活用した広域全体で企業誘致に努め、若者等の雇用の場の創出を図りますということなのですが、これについては非常に期間的な問題、あるいはどの程度、もちろんこれに向けてそれなりに動きはしていると思うのですが、どんな状況、かなり難しいと思うのですが、何か進展している部分がありますか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 具体的な協議、相談等はしているわけではございませんが、本村といたしましては、三陸沿岸道路のフルインターが3か所ございます。その強みを発揮しながら、近隣市町村と一緒に企業誘致等に努められればいいかなと思っております。また、村内の第三セクターの会社のほうで設備更新等も考えている会社もございますので、ぜひそちらのほうにも協力しながら、就業機会の確保、雇用の確保に努めていきたいと考えています。

○議長【鈴木隆昭君】 9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 村長は、近隣市町村の関係と情報交換しというような言い方なのですが、企業誘致は、私は違うと思うのです。やはり関東、関西あるいは東北でもいいのですが、近隣市町村はみんな悩みが同じだと思います。田野畑だけが企業誘致を求めているわけではないと思うので、やはりそれは足を運んで、コロナで自由な出張行動も大変だと思うので、いずれ村外あるいは県内であって、その誘致等々の情報なり、そういう関係に対して積極的に取り組むべきだと。今これに対して、それらしき行動に移っていないということは、このままでいくと絵に描いた餅になる可能性があります。もちろん村長自らあれであれば、副村長とか、課長とか、そういう情報を仕入れるために、やっぱり出張費を増額しても積極的にやるべきだと思います。

逆に難しいのは、誘致企業を得たとしても、今度は雇用体制の数はどうなのかということにも、そのときはいわゆる近隣市町村にも声をかけて、できるだけ高速道路を使えば、久慈も、簡単に言えば30分、南も宮古も30分ですから、十分通勤はできるわけ。そのときの関連市町村との協議は必要だと思うのですが、企業誘致のために隣接町村と動いても無理な話、どちらも悩みは同じだと、そう思いますが、いかがでしょうか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 ありがとうございます。まず、全く新たな企業を引っ張ってくるのはまた大変かと思っておりますので、今ある三セク、また誘致企業等を訪問したり、その関連企業等をまた紹介してくれるなどの、そういった活動をまず始めていきたいと思っております。また、過日新聞報道でもありました宮古のフェリー、あれが再開するのではないかという期待感もございます。三陸沿岸道路は物流が大きく変わっておりまして、ドライバーの休憩する場所等も道の駅等辺りに整備できたり、誘致できたりすればいいのかなと思っております。これは産業ではございませんけれ

ども、いろいろあらゆる手段を使って雇用の確保、就業機会の確保等に努めていくように努力したいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 大きくは（3）の各自治会への草刈り等の負担を軽減しますという、これは具体的にはどのような取組をしたのですか。

○議長【鈴木隆昭君】 地域整備課長。

○地域整備課長【工藤隆彦君】 お答えいたします。

各自治会からやはり草刈りが厳しいとかそういった話は伺っておりまして、そのために当課職員が、草刈りをやる前に自治会長さんとか地区の人にご相談をしながら、地区でやるべき区間とか、こっちで、村でやるべき区間とか、あとは国、県、村というところでの区分がありますけれども、そういったところで相談をしながら、今年度も実施させていただきました。

○議長【鈴木隆昭君】 9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 要するに、私が申したいのは、あまり自治会の作業の軽減はなされているとは理解していない分があるので、やはりどうしても例えば田野畑の場合でいえば、班で10人前後の、それぞれ班で違うのだけれども、結局その作業をするというのも高齢だとか、家庭の事情でとかいろんな事情があって、実際例えば10人のそれぞれ班があっても、せいぜい六、七人ぐらい参加するかしないかという、半分は若干超えるかぎりぎり、例えば私どもの例で、各あれを把握したわけではないが大体7割いかないのではないかな。そういう状況であるというのは把握していますか。

○議長【鈴木隆昭君】 地域整備課長。

○地域整備課長【工藤隆彦君】 おっしゃるとおり地域懇談会でも、やはり草刈りに関するものは多く出ておりまして、こちらとしてもそういった厳しい状況があるのであれば相談をして、村でやる分、あとは地域でやる分というところ、具体的な距離を決めながら、個別具体的にちょっと聞いて回って実施してまいりたいなと思っております。

○議長【鈴木隆昭君】 9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 それらこれらに関連して申し上げたいのは、やはりいわゆる草刈り作業、あるいはそういった作業の若手の方、あるいは従事者がほとんど、簡単にというか、具体的には後継者らしい方がないというのが現状。やっぱり森林組合だとか、例えばそういう団体でも若手を育成できるような、そういう、もちろん興味があって、健康で体力もなければできないから、そういう担い手的な、あるいは後継者的な、農業についても同じことが言えるのですが、そういう人材を発掘するか登用して、村内であれば一番いいのですが、村外からかもしれませんが、そういう、それをやれるという魅力もなければ林業に取り組まない部分もあるわけですが、そういう漁業も同じですが、そういった関係の若手の登用をできるような、そういう何かアイデアとか、

チャンスとか、そういうものを与えてやっていかないと、本当に自分をはじめ大変な事態であると思います、高齢化して。その点はどうか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 自治会活動の基本、基礎は、やっぱり地域に暮らしている人たちが顔を合わせて共同作業をしたり、一緒になってお祭りに集まって、意見交換したりして、コミュニケーションを図るのが基本、基礎になっていくのだらうなということで考えております。ここ二、三年はコロナ禍で、お祭り等もできなかつたわけですが、共同作業につきまして、高齢化によって作業が厳しいというのもまた現実だとは思いますが、各自治会によって代替わりができるのであれば、若い人たちが出てきて、それをまた次の若い世代につないでいくという、過去私たちがやってきたような活動ができるようなのを支援していきたいと思っておりますが、この少子高齢化でちょっと厳しい状況にはありますので、何とかコミュニティー、全部行政のほうで草刈りとか何かやってしまえばそれでいいのかもしれませんが、一方でそうなればコミュニティーを廃れさせてしまうことにもなりますので、地区と本当に意見交換、コミュニティーを図りながら、何とか自治会活動を支援していきたいなど。両方バランスを考えながらやっていきたいというふうに考えていました。

○議長【鈴木隆昭君】 9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 今は、ご承知のとおり、スマホがあれば何でもできる、何も見えるような世の中なので、なかなか若手の人たちがそこまで配慮した形で参加するなんていうのは非常に難しい問題。要するに、今村長が言っているのは、昔はなかなか人と会う機会もなかったり、そういうテレビ、極端に言えばテレビ報道らしいのもなかったり、今はどこにいても退屈しているわけではないわけで、そういう若手にとってかなり難しい問題だと私は思っていますが、何もかも行政でやれというのは、これは確かに酷な話で、村長の答弁の部分も理解はしますが、やっぱり併せて、今後かなりそういうコミュニティー的なところは遠ざかっていくのかなと、私はそう理解していますが、どうですか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 地域が存続していくためには、やっぱり若手の育成と協働というのも必要になってくるかと思っておりますので、ぜひ理解を得ながら、若手の活躍する場もつくりながら、そういう伝統等をつないでいければいいのかなというふうに考えています。難しいことは百も承知ですけれども、そうではないと地域が残っていけないという危機感も一方でございますので、理解を得ながら、活躍の場をつくりながら、伝統をつないでいければいいのかなというふうに思っております。

○議長【鈴木隆昭君】 9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 では次に、ナラ枯れについて質問したわけですが、これに移りますが、ナ

ラ枯れ病が異常な発生をしているのは理解しているわけですが、これについてやはりいつまでだ
って、確かに急斜面とか、危険な箇所があるわけですが、ただそうやって放置していけば、だん
だん、だんだん広がっていくという傾向になると思うのですが、やはり早めに、いわゆるこれは
薬剤散布なんていうのは不可能ですか。どうですか、取りあえず。そういうものはないのか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐藤智佳君】 お答えいたします。

ナラ枯れの病虫害の駆除に関しては、立っている木であれば、穴を空けて、薬剤を注入する。
また、平らなところであれば、木を切り倒して、袋をかけて、御覧になっているかと思いますが、
ビニール袋をかけて、その中に薬剤を入れるというふうな駆除方法になっておりまして、全体的
な空中散布をしてしまえば、それなりにちょっと影響が出てしまう部分もございますので、一斉
に薬剤をかけるということができない状況となっております。

今やれることとすれば、今海岸線沿いが多いですけれども、だんだんとやっぱり内陸側に入り
込んできていますので、この内陸に入り込んだ一番センターのものをとにかく潰していくという
ふうな方法しか今できない状況になっております。田野畑ではまだ今45号から東側のほうが特に
も多い状況になっていますが、何とかこの45号から内側に入らないようにしていきたいと思っ
ております。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 薬剤散布につきましては、私も県の関係機関に問い合わせた経過がござい
ます。6月から8月頃に虫が木から飛び出して次の木に移るようでございますが、ヘリコプター
等で広範囲にやるのではなくて、あそこの山がちょっとひどいから、そこにドローンでもってピ
ンポイントで薬剤散布できないのかということも聞いたこともございますが、今のその虫は、木
から飛び出してすぐ短時間で隣の木、周辺の木に移ってしまうということで、数も多いことから、
ちょっと薬剤散布は無理があるという話をされました。ということで、これは伐倒薫蒸、沿岸部
では難しいので、やっぱり立木薫蒸、それを森林組合とか業者に委託するだけでなく、森林所
有者にインパクトドライバーとかそういうのを貸し出して、自分でやってもらうというような方
法もあるのかなと思いつつながら、今担当課といろいろ協議しているところでございます。

いずれ、担当課長、産業振興課長が申し上げたとおり、沿岸部は急峻なところがあって、なか
なか人も行けない、当然機械等も行けないようなところがございまして、そこにつきましては、
そのものが腐って倒れて下の道路に落ちないように、そっちの対策しかないのかなと思っていま
す。内陸に入ってこないように、入ってきたらその先端をたたき、また入ってくる前に木を切っ
てしまうという、売れる状態で早めに切って金にするという方法もまた対策の一つだというふう
に伺っておりますので、それらを森林組合等と相談しながら、何とか被害をこれ以上広げないよ
うにやっていきたいと思っております。

○議長【鈴木隆昭君】 9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 ナラ枯れ病になると、伐採して、木材製品としても、木材として販売できない情報もあるのでしょうか、その程度の問題もあるだろうし、そうすると所有者に対するかなりの打撃になるわけですが、早めに、いわゆる木に穴を空けて処置するのも、大体今年何か所か、何本か、そういう対応をした経過がありますか。

○議長【鈴木隆昭君】 産業振興課長。

○産業振興課長【佐藤智佳君】 お答えいたします。

ナラ枯れの駆除は平成元年からスタートしておりまして、今年度は春駆除で、真木沢のほうのナラの木になりますが、93本、薬剤のほうでの処理をしております。これについては、県の補助金と、それから村の単独で合わせての支出で対応しております。

○議長【鈴木隆昭君】 9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 九十何本に薬剤をしたというのは、これは最終的にはそのままでいるのか、伐採等してお金になったのか、どのようにしたか、所有者の範疇だと思うのですが、その点はどうなっていますか。

○議長【鈴木隆昭君】 暫時休憩いたします。

休憩（午後 2時34分）

再開（午後 2時34分）

○議長【鈴木隆昭君】 再開いたします。

産業振興課長。

○産業振興課長【佐藤智佳君】 お答えします。

担当のほうから、処理、その後の対応については確認いたします。

○議長【鈴木隆昭君】 9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 薬剤を注入しただけでなく、その後どうなったかぐらいは把握しておいてもよかったのではないかなと。いわゆるそれが、例えば伐採して、幾らかでも、幾らかでもは失礼ですが、収入になったのかどうなのかというところまで本当は聞きたかったのですが、実際病気に対する処置もままならない村の財政負担、国、県に要望はしているとしても、大変だと思うのですが、今後いわゆる所有者に対しての何らかの補助という考えを持っているのですが、これが具体的になる可能性があるのですか。どうなのですか。ただ思っているだけなのか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 森林所有者に自分で立木薫蒸をしてもらうということで、山の中に入ってあって、木に穴をもんで、それに薬剤を注入するという作業でございます。山に入っている作業になりますので、バッテリーをつけたインパクトドライバーですか、そういうようなものと薬剤を

配付するなりして、自分で、人海戦術でもって拡散を止めたいと思っておりますが、それについての財源は、森林環境譲与税を活用できるというふうに向っておりますので、その活用についても今後検討してまいりたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 9番、佐々木功夫君。

○9番【佐々木功夫君】 そういう具体的な対応を検討してあれば、やっぱり早急に対応を、所有者との協議等々も含めて、一日でも早い対応をすべきだと思うのですが、そのうちに秋になってくれば、色も皆赤くなってくれば、どれがナラ枯れだか分からなくなる。そういう状況にもなりかねないわけですが、やっぱり具体的な補助的な、あるいは作業的なものが準備されているのであれば、一日も早く、いわゆるいきなり地主に道具を持って薬を持ってというわけにはいかない。事前に協議か何かしましたか、このことについて。

○村長【佐々木 靖君】 まだしていません。

○9番【佐々木功夫君】 事前にそういう関係は集めて協議してあれしないと、俺は山には行かないよとか、年齢の問題、人を頼んでも行くかもしれないし、やるかもしれないし、やっぱり早めに協議して対応すべき。結局真木沢地区の薬剤を投入しただけで、その他については何一つ進んでいないというようなことで、ちょっとお粗末だと思うのですが、大丈夫ですか。

○議長【鈴木隆昭君】 佐々木村長。

○村長【佐々木 靖君】 昨日の森林関係の会議で、そういうアイデアとか、森林環境譲与税の使途が、活用ができるというふうに向ったので、昨日の時点のアイデアとしてそういうのがあるのではないかなということで、これから協議して、関係者、森林組合もそうですが、あとできるかどうかも含めて早急に対応して、秋駆除には間に合わないとしても、春駆除、それには間に合わせたいかなというふうに思っています。

また、一般論として、被害のあった木があった山を一山切るとすれば、健全な木は高く売れて、被害のあった木はチップなりにすればいいということなようでございます。そのまま地区外に移動して、そのまま放置すれば、そこでまた虫が飛び出してきて、かえって拡散するという話でございますので、被害木についてはこういう状況なので、すぐ燃してくださいとか、チップにしてくださいというような条件つきでの搬出になるかと思えます。いずれ、被害木だけでなく、被害のあった山の木を、周辺も切って、お金にするというのも駆除の方法だということで周知してまいりたいと思います。

○議長【鈴木隆昭君】 これで9番議員の質問を終わります。

暫時休憩いたします。

休憩（午後 2時39分）

再開（午後 2時39分）

○議長【鈴木隆昭君】 休憩前に引き続き会議を開きます。

◎認定第1号～認定第7号の一括上程、説明、委員会付託

○議長【鈴木隆昭君】 お諮りいたします。

日程第6、認定第1号 令和3年度田野畑村一般会計歳入歳出決算認定について、日程第7、認定第2号 令和3年度田野畑村国民健康保険特別会計歳入歳出決算認定について、日程第8、認定第3号 令和3年度田野畑村簡易水道特別会計歳入歳出決算認定について、日程第9、認定第4号 令和3年度田野畑村集落排水特別会計歳入歳出決算認定について、日程第10、認定第5号 令和3年度田野畑村下水道特別会計歳入歳出決算認定について、日程第11、認定第6号 令和3年度田野畑村介護保険特別会計歳入歳出決算認定について、日程第12、認定第7号 令和3年度田野畑村後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算認定について、以上認定7件はそれぞれ相互に関連がありますので、一括議題にいたしたいと思いますが、ご異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議長【鈴木隆昭君】 ご異議なしと認めます。

したがって、日程第6から日程第12までを一括議題とすることに決定いたしました。

日程第6、認定第1号から日程第12、認定第7号までの認定7件を一括議題といたします。

提案理由の説明を求めます。

佐々木村長。

[村長 佐々木 靖君登壇]

○村長【佐々木 靖君】 認定第1号から7号までの提案理由について説明させていただきます。

令和3年度は、新型コロナウイルス感染症が世界中で猛威を振るい、8月には岩手県独自の岩手緊急事態宣言が発令されるなど、自粛や様々な行動が制限され、生活や経済活動などに大きな影響を与えました。また、その後も変異株の市中感染により感染拡大が止まらず、終息の兆しの見えない状況に不安が続いた1年となりました。一方、4月の道の駅たのはた思惟の風グランドオープンや12月の三陸沿岸道路全線開通など、明るい話題もありました。道の駅は、村民や観光客の交流の場、地域振興施設としての本格的なスタートを切り、新たなにぎわい創出の場となっております。東日本大震災からの復旧、復興事業については、田野畑村災害復興計画を基に106事業を実施し、地域づくりに不可欠な基盤整備などに取り組みました。全国から多くのご支援をいただきながら、昨年9月に全事業を完了することができました。

主要事業の推進に当たっては、総合計画後期基本計画、田野畑村まち・ひと・しごと創生総合戦略に基づき、計画的に事業を実行しました。総合計画後期基本計画における計画事業174事業のうち66事業、9億7,510万円、総合戦略関連事業として24事業、3億2,031万円の事業を実施いたしました。さらに、地方創生推進交付金の採択を受け、移住定住推進事業及び道の駅たのはた

を軸とした地域しごとづくり事業を実施し、人口減少対策や地域資源を活用した新たな雇用創出を推進しました。

令和3年度の一般会計決算額は、歳入総額57億8,482万円余り、歳出総額55億3,847万円余りとなりました。特別会計を含めた全会計では、歳入総額73億8,331万円余り、歳出総額70億4,547万円余りとなりました。

以上が令和3年度の主要施策とその成果についての概要でございます。また、産業振興や福祉、教育などの領域ごとの詳細及び各会計の決算状況については、議員各位に配付している主要施策の成果に関する説明書で説明に代えさせていただきます。

以上が提案理由でございます。よろしくご審議のほどお願い申し上げます。

○議長【鈴木隆昭君】 お諮りいたします。

以上認定7件については、議長を除く全議員で構成する決算特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することにいたしたいと思っておりますが、ご異議ございませんか。

(異議なしの声あり)

○議長【鈴木隆昭君】 ご異議なしと認めます。

したがって、認定7件については全議員で構成する決算特別委員会を設置し、これに付託の上、審査することに決定いたしました。

なお、委員長、副委員長の互選のため、決算特別委員会を本会議終了後、直ちに当本会議場に招集いたしますので、ご参集願います。

◎散会の宣告

○議長【鈴木隆昭君】 以上で本日の議事日程は終了いたしました。

本日はこれをもって散会といたします。ご苦労さまでした。

(午後 2時45分)